

中大技術士会 創立20周年記念号

— 中大技術士会 20年の歩み —



(2024年4月4日 中大技術士会幹事撮影)

中大技術士会ホームページ <http://www.chuo-u-pej.org/>



2024年6月

目次

ご挨拶

第1章 祝辞

- 1.1 中央大学工学部長 梅田和昇…………… 1-1
- 1.2 中央大学常任理事 石井 靖…………… 1-2
- 1.3 中央大学工学部准教授 諸麥俊司…………… 1-3
- 1.4 中央大学法曹会会長 石田 茂…………… 1-4
- 1.5 公益社団法人日本技術士会会長 黒崎靖介…………… 1-5
- 1.6 大学技術士連絡協議会事務局 安部 毅…………… 1-6

第2章 中大技術士会発足 20 周年を迎えて

- 2.1 中大技術士の歴史（金川名誉顧問）…………… 2-1
- 2.2 中大技術士の活動内容（坂林会長）…………… 2-4
- 2.3 中大技術士の運営体制について（國島幹事長）…………… 2-6
- 2.4 第 10 期の運営幹事（國島幹事長）…………… 2-8

第3章 活動内容の紹介

- 3.1 総務部会の紹介（國島幹事長）…………… 3-1
- 3.2 企画部会の紹介（武安副会長）…………… 3-3
- 3.3 大学支援部会の紹介（黒澤副会長）…………… 3-7
- 3.4 広報部会の紹介（小林副会長）…………… 3-10
- 3.5 大学技術士連絡協議会の紹介（佐藤幹事）…………… 3-14
- 3.6 テクノロジー懇談会の紹介（國島幹事長）…………… 3-16
- 3.7 CO2 環境対策技術研究会の紹介（金川名誉顧問）…………… 3-17
- 3.8 グリーンインフラ勉強会の紹介（山下幹事）…………… 3-18
- 3.9 「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」
プロジェクト研究（中尾参与）…………… 3-20

第4章 寄稿

- 4.1 内藤堅一会長を偲んで（武安副会長）…………… 4-1
- 4.2 故林知幸幹事長を偲ぶ（藤森顧問）…………… 4-2
- 4.3 伊藤俊郎幹事を偲ぶ（小林副会長）…………… 4-3
- 4.4 「科学技術と倫理」の講義を通して学生に訴えてきたこと（山下幹事）…………… 4-5
- 4.5 海外移住便り（藤森顧問）…………… 4-7
- 4.6 いつまでも活躍できるように（萩野幹事）…………… 4-9
- 4.7 79 歳での入院・その後（大澤幹事）…………… 4-10
- 4.8 生成 AI の活用について（中野会員）…………… 4-12
- 4.9 内藤会長との思い出（小林副会長）…………… 4-17
- 4.10 音楽との再会（笹尾元幹事）…………… 4-18

第5章 資料

- 5.1 中大技術士会 20 年の歩み（國島幹事長）…………… 5-1
- 5.2 歴代幹事（坂林会長、武安副会長、小林副会長、國島幹事長）…………… 5-5
- 5.3 会員構成（染谷幹事）…………… 5-9
- 5.4 中大技術士会会則…………… 5-10

新 1 号館完成予想図

ご挨拶

中大技術士会創立 20 周年を迎えて

中大技術士会会長 坂林和重（電気電子部門）



挨拶として、「創立 20 年を迎えたことへの感謝」と「中大技術士会の目指す方向性」について述べさせていただきます。

1. 創立 20 年を迎えたことへの感謝

中大技術士会は、創設 2003 年から 2023 年で創立 20 周年を迎えました。2024 年より、次の 10 年に向けてスタートを切ることができました。大学をはじめ卒業生や関係者など、多くの方々のご支援をいただいたおかげと感謝しております。

技術士資格は、第一次試験合格後に社会人として実務経験を 7 年以上経てから第二次試験合格で取得できる資格です。社会人である OB・OG の資格取得者との連絡に苦勞されたと聞いています。

技術士資格は、難易度が高く取得人口が少ないうえに消費者と直接かかわることの少ない資格です。資格認知度が低いことで創設期に苦勞されたと同っています。創設にかかわった、大学をはじめ卒業生や関係者各位には、感謝に堪えません。創設メンバーには、頭が下がる思いです。

お陰様で現在では、在学生に第一次試験の受験を勧める事ができるようになりました。近年は、第一次試験合格者人数で全国国公立大学 780 校の第 1 位・第 2 位を維持しております。

また、大学の先生方の研究にも関わらせていただきました。配管など狭いところへ侵入できるミミズロボット・CO₂ を吸収する素材の研究・筏に太陽光パネルを乗せた発電システム・・・など、大学にかかわれたのは、卒業生として喜びに堪えません。

この 20 年間のご支援と皆様と関わられたことを感謝申し上げます。

2. 中大技術士会の目指す方向性

中大技術士会には、次の 4 つの使命があると考えています。

(1) 技術士試験について

技術士試験は、日本の考えられるほぼ全ての技術分野にかかわる試験です。機械部門から建設部門や原子力放射線部門など全分野です。技術士試験で全国 TOP になるということは、日本の技術分野において TOP になることを意味しています。その指標の一つとして、第一次試験の合格者数・第二次試験の合格者数があると考えています。現在は、在学生の第一次試験合格者数で TOP（第 1 位または第 2 位）となっています。これを第二次試験へ拡大したいと考えています。

(2) 大学支援について

技術士の強みは、最新技術の実用化です。技術士は、実務家 7 年以上の経験者として多くの新技術を実用化してきました。この強みを生かして、大学の研究を世に広める支援をたく思っています。実用化や企業とのパイプ役になればと思っています。中大技術士会を活用してください。

(3) 技術者倫理・持続的環境について

技術士は、技術者倫理を重視する資格です。また SDGs をはじめとする、環境を重視した持続的な発展を目指す資格です。これらの事を踏まえて、実務家 7 年以上の経験を在学生に還元していきたいと思っています。まずは、大学の授業へ講師を派遣していきたいと考えています。

(4) 会員のメリットについて

社会で活躍するには、人と人のつながり（ネットワーク）が重要です。専門分野の異なる技術士同士の協力、あるいは、経済や法律など異分野との協業などで社会貢献できればと思っています。これらの協力を進めて、参加したくなる技術士会を目指したいと思えます。

3. 皆様へのお願い事項

以上、これからの 10 年を有意義なものとしたく、皆様のご協力ご指導をお願い申し上げます。

第1章 祝 辞

1.1 祝 辞

中央大学理工学部長・教授 梅田和昇

中大技術士会が創立 20 周年を迎えられること、心よりお祝い申し上げます。組織は作ることに維持させていくことが大変だと思いますが、中大技術士会は活発な活動をずっと続けられてこられていることが素晴らしいと思います。関係各位に敬意を表すると共に、この 20 年間、理工学部に対して、講義科目の「キャリアデザインと倫理」「科学技術と倫理」に兼任講師やゲストスピーカーとして携わって頂いたり、理工白門祭で毎年魅力的な機器展示を行って下さったりと、変わらぬご支援・ご協力を頂いていることに、改めまして御礼申し上げます。



さて、この 20 年間、理工学部も変化して参りました。1949 年に 4 学科からなる工学部として創立され、1962 年に理工学部へ改組されると同時に後樂園キャンパスに移転し、中大技術士会が創立された 2004 年には 8 学科体制となっていました。その後、2008 年に生命科学科を、2013 年に人間総合理工学科を開設し、現在は 10 学科体制となっています。この間、学科の改組も行って参りました。2008 年には土木工学科を都市環境学科に、2021 年には経営システム工学科をビジネスデータサイエンス学科に改組しました。また、大学院では、2017 年に都市環境学専攻を改組して都市環境学科と人間総合理工学科の 2 学科をカバーする都市人間環境学専攻が発足しました。また、博士後期課程では、同じく 2017 年に、3 つの専攻を発展的に統合した電気・情報系専攻が発足しました。

建物の建替も行われてきました。後樂園キャンパス移転当初からあった 1、2 号館に対し、まず 2 号館が 2011 年に建て替えられました。旧 2 号館にあった都市環境学科と精密機械工学科に加え、生命科学科、人間総合理工学科が 2 号館に入っています。一方の 1 号館ですが、現在新しい建物を旧 2 号館があった場所に建築中で、来年 2025 年に供用開始となります。主に物理学科、電気電子情報通信工学科が使用し、最上階の 5 階にはラウンジも設けられます。また、現在の 1 号館の 1 階には庶務課、学生生活課、保健センターなどの事務組織が入っていますが、新 1 号館が完成した後に、6 号館の改修工事を行って事務組織をすべて 6 号館 1、2 階に集約させることで、事務機能のワンストップ化が実現されます。その後、現在の 1 号館は解体されることとなります。1 号館が新しくなることは理工学部の悲願であり大変嬉しいことである反面、移転当初からの建物がすべてなくなると思うと、一抹のさみしさも覚えます。

また、3 号館の上層階には理工学部以外の組織が入っていますが、これらも様変わりしました。2020 年には AI・データサイエンスセンターが、2021 年には ELSI(Ethical, Legal, and Social Implications)センターが設立されました。また、2023 年には、法学部の茗荷谷キャンパス移転に伴い、法学部教員の研究室の一部が 3 号館に設けられ、合わせて、比較法研究所も多摩キャンパスから移転しました。同じく 2023 年には、中央大学産学官連携・社会共創フロアも開設し、産学官連携に資する研究活動の推進などに活用されはじめています。一方、2008 年に開設した戦略経営研究科(ビジネススクール)は、2023 年に 3 号館から駿河台の地に新たに出来た駿河台キャンパスに移転しました。このように、後樂園キャンパスに限っても、中央大学は現在大きな変革の時を迎えています。理工学部も今後の発展に向けて現在改革を検討しており、遠からず皆様にもその内容をご披露できるものと考えております。

さて、技術士の英語が Professional Engineer であることを(恥ずかしながら)最近知りました。“プロフェッショナルな技術者”を養成することは、理工学部にとって極めて重要であり、中大技術士会の皆様、理工学部ならびに理工学部学生にとって、ロールモデルとなって下さるとの認識を新たにしました。今後の中大技術士会の益々のご発展と会の皆様のご活躍・ご健勝を祈念すると共に、引き続き理工学部にご支援を賜ることをお願いさせて頂き、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

1.2 創立 20 周年によせて

学校法人中央大学常任理事・理工学部教授 石井 靖

中大技術士会が創立 20 周年をお迎えになるとのこと、誠におめでとうございます。この間に中央大学理工学部の学生諸君に賜りましたご指導と教員に対する様々なアドバイスやご支援に心より感謝申し上げます。

思い返しますと、私と中大技術士会との出会いは私が理工学部長を拝命致しました 2013 年だったかと思います。当時の金川会長と林幹事長他の皆様が理工学部長室までおいで下さり、技術士資格の何たるかからご教示を頂いたように記憶しております。私自身は工学部を卒業しているとはいえ、どちらかと言えば理学系の分野で大学教員をやって参りましたことから、技術士そのものに全く不案内でありました。ただ、中大技術士会が理工学部の学生が在学中に技術士 1 次試験に合格できるようにサポートを行っているので、それには協力をするようにということが前任の石井洋一先生から申し送りの一つでございました。以来、新入生向けのガイダンスや 2,3 年次の授業の中で技術士 1 次試験の紹介を頂いたり、学生が受験する分野毎に模擬試験を作成して受験を促して頂くなど、様々なご指導を頂きました。お陰様で、当時は合格者の出身大学ランキングで中央大学がトップを飾るに至ったことは大変に誇らしく思ったものです。私は理工学部長在任中に、中大理工では工学教育の質保証として技術士 1 次試験の受験を奨励していること、そしてそれは学生一人ひとりが自分の「質保証」をしていることなのだとし上げて、これを学内外にアピールさせて頂きました。最近是他大学もこうした取り組みを進めているようですが、中大理工の工学教育の質保証としてこの伝統を引き継いでいって頂ければと考えております。中大技術士会のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



最後になりますが、中大技術士会の益々のご発展と関係各位のご健勝を祈念して、お祝いの言葉とさせて頂きます。

1.3 中大技術士会との研究交流

中央大学理工学部電気電子情報通信工学科准教授 諸斐俊司

中大技術士会創立 20 周年、まことにおめでとうございます。

中大技術士会と諸斐研究室の交流は 2016 年に中大技術士会講演会に私を講師として呼んでいただいたことがきっかけでした。

その後、2018 年 6 月と 2019 年 12 月の 2 回に渡り、テクノロジー懇談会として諸斐研での学生による研究発表と、ディスカッションする機会をいただきました。電気同窓会の小林進会長が当時、当学科で教育技術員をされており、中大技術士会との橋渡しを務めてくださりました。テクノロジー研究会においては、様々な専門性をお持ちの会員の方々から、ご意見・アドバイスをいただき、学生にとっても私にとっても大変良い刺激を得る機会となりました。



また、中大技術士会との交流に関する事で、特に印象深いのは理工ポート部の練習訪問です。テクノロジー研究会で発表させていただいた研究テーマの中に、スピード競技の練習を支援するシステムに関するものがありました。当時の内藤会長は理工ポート部の OB 会会長もされており、監督や部長に話を通していただいて、理工ポート部の練習見学をアレンジしてくださりました。研究室の学生とともに戸田のポート練習場にお邪魔して、練習を見学させていただくとともに、監督や部員の方々からポートの練習方法や強化において重視する点など、貴重なお話を伺う機会を得ることができました。見学の際には内藤会長もお見えになり、アドバイスとともに研究に対する力強い激励をいただきました。その後も戸田の練習場を何度か訪問させていただき、部員の方に協力をいただいて、試作システムでの測定データも取得することができました。2021 年に内藤会長の訃報を受けたときは大変大きなショックを受けました。故人のご冥福を心よりお祈りしたいと思います。

その後、新型コロナウイルスが猛威を振るい、それをきっかけとして、中大技術士会と諸斐研との交流はしばらく途絶えてしまっています。よろしければ、是非再びテクノロジー研究会として研究交流を再開できればと考えております。

研究室での研究活動において、外部の方から、特に中大技術士会のように経験に基づく豊富な知識と高い専門性を有するの方々から、ご意見をいただける機会は大変貴重です。中大技術士会の皆様には今後も学生への研究指導にご協力いただけますと大変幸いです。

1.4 中大技術士会 20 周年に寄せて

中央大学法曹会 会長 石田 茂

- 1 私は、平成23年（2011年）および24年度の坂巻紈男幹事長（当時は「会長」とは呼んでおりませんでした）の執行部で事務局長をしておりました。この当時、坂巻幹事長が貴会を訪ね、学員会支部同士の交流をしたいと希望し、今日の交流の基礎ができあがったのです。平成23年10月29日、技術士会総会において、当時の関係諸団体交流委員会委員長大谷隼夫先生が「中大法曹会と中大技術士会との連携」と題して講演されており、同年11月10日には貴会との懇親会が開催されております。翌年8月11日、中大技術士会勉強会が中大理工キャンパスで開かれ、「低経緯太平洋ソーラーセル帆走筏発電システム」について学習させていただきました。これは余談ですが、最近テレビニュースで、浮体式洋上風力発電システムが開発されて、台風でも同システムが流されたことはないと紹介されており、発電システムも画期的に進歩しているようであります。
- 2 我々執行部は、昨年5月の総会で選出され、2年間中大法曹会の舵取りを任されておりますが、これは、諸先輩や学員会の各支部に支えていただかなければできるものではありません。なお、東京には三つの弁護士会があり、本年度は東京弁護士会の担当であり、2年の任期を終えますと、次は第一東京弁護士会が2年、その後は第二東京弁護士会が2年と順々に担当致します。当会は、学員会の支部の中でも南甲倶楽部、学員体育会、中大技術士会、公認会計士白門会、行政書士白門会、社会保険労務士白門会および司法書士白門会等とは、定期的に交流の場を設けております。これらの会との交流によってえられる人脈によって、様々な学員の方々と結びつくことができるのであって、これは他に代え難いものであります。従来から交流することが尊重されて来たのは、このような理由によるものであり、学員会の発展に真に寄与するものであります。我々執行部もその一端を担わせていただき、皆様と一緒に有意義な活動を重ねて行きたいと存じます。
- 3 さて、当会は、令和6年4月上旬に中大法曹ニュースを発行し、5月24日に第4回常任幹事会・幹事会（年に1度の総会に相当するものです）を開催します。つまり、あと少して1年が経過するのです。新型コロナが令和5年5月8日に5類感染症に移行したことによって、コロナ禍が、一応終了しており、皆様に実際に参集いただけることになり、活発な活動を行うことができることになっております。
これからも技術士会の方々とより良い交流の場を設けようと存じますので、よろしくお願いいたします。



1.5 中大技術士会 20 周年記念誌に寄せて

公益社団法人日本技術士会会長 黒崎靖介（建設部会・環境部会）

この度は、中大技術士会設立 20 周年まことにおめでとうございます。またこの節目に記念誌を発行されることにお慶び申し上げます。

中大技術士会は、大学研究者の研究成果を社会に還元する産学連携時の産業界への橋渡し、JABEE 認証の支援、学生や卒業生の方が技術士資格を取得する為の支援、会員の方々の自己研鑽のための研修会などさまざまな活動を展開されていると認識しています。また学生への技術士制度の紹介や模擬試験を実施していただく等の活動により、中央大学は在校生の技術士第一次試験合格者が全国有数の大学となっております。これら技術士制度の普及、資格の活用、技術士の知名度向上に多分にご活動いただいていることに、改めて深く感謝を申し上げます。



さて日本技術士会では技術部門ごとに設けられた部会、全国各地域に設けられた地域本部等においてさまざまな活動を行っていますが、出身大学毎の技術士会、企業内技術士会等においても、技術士の相互交流などの活動が活発に行われています。このように技術士の活動がさまざまな場所で活発化することは、技術士にとっての利便性という点だけではなく、グローバル化の趨勢の中で均一化されがちな科学技術の世界において多様性を確保するという側面においても、非常に意義のあることと認識しております。日本技術士会としても、関係する各種団体との連携を進めることが、技術士及び日本技術士会の知名度向上、活動・活躍の活性化、ひいては日本の科学技術の発展に繋がるものと考えております。

日本技術士会は公益社団法人としてわが国の科学技術イノベーション推進に貢献するとともに、なお一層の技術士資格の有用性の向上を目指した制度検討及び活用促進に向けた取り組みを進めており、このために関係府省、産業界、高等教育機関、学協会等の各界への働きかけをおこなっております。2021 年から開始された技術士 CPD の実績管理及び活用事業は、日本技術士会がその事務実施主体となっておりますが、日本技術士会の会員のみならず広く技術士全般を対象として技術士 CPD の登録管理を行っております。ご案内のとおり資質の向上は法に定められた技術士の責務であり、技術士が個人としても総体としてもその責務を果たしていることを社会に対して証明することは技術士制度にとってきわめて重要なことです。技術士会の会員の方、会員ではない方におかれましても、ぜひこの技術士 CPD の登録制度を利用し皆様の資質向上のための継続研鑽の記録、証明に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、貴会の益々のご発展と、皆様のご多幸を祈念いたしまして、寄稿の締めとさせていただきます。

1.6 大学技術士会連絡協議会「大技連」の沿革と展望

大技連事務局 安部 毅（柏門技術士会、明治大学技術士会）

中大技術士会設立 20 周年、誠におめでとうございます。

中大技術士会におかれましては、大技連の発足時から関わられたことに加え、在学生の技術士第一次試験合格者数ランキングで例年上位を占めるなど、多くの加盟校から注目が集められています。

さて、大学技術士会連絡協議会（略称、大技連）は、加盟を希望する大学・高専技術士会から構成された会員相互の親睦と交流を図るための集まりとして、2008（平成 20）年に発足されました。会員がそれぞれの母校と連携を取りながら技術士の増大に寄与するために、相互に情報を交換できる場とすることを目的として活動しています。



2024（令和 6）年 2 月現在、加盟校は下記のとおり全 36 校となりました。

大学技術士会連絡協議会加盟校(全36校)					R6.2現在
東京工業大学 (蔵前技術士会)	日本大学 (桜門技術士会)	早稲田大学 (技術士稲門会)	東京都市大学 (柏門技術士会)	東京理科大学 (理窓技術士会)	
中央大学 (中大技術士会)	千葉工業大学	工学院大学	東北大学 (技術士青葉会)	大阪工業大学 (学園技術士会)	
摂南大学	名城大学	芝浦工業大学 (芝浦技術士会)	慶應義塾大学 (慶應技術士会)	室蘭工業大学 (水元技術士会)	
九州工業大学	名古屋工業大学 (ごきそ技術士会)	大阪大学 (大阪銀杏技術士会)	京都大学	東京電機大学	
電気通信大学	東北工業大学	大阪産業大学	近畿大学	中部大学	
明治大学	東京農工大学	東海大学 (望星技術士会)	立命館大学	同志社大学 (同志社技術士会)	
東京大学 (赤門技術士会)	横浜国立大学 (横浜技術士懇話会)	青山学院大学 (常盤木技術士会)	放送大学 (天空技術士会)	東京海洋大学	
徳島大学					

()は、技術士会名 ※()書きのないものは、「大学名+技術士会」が名称になります。

ここでは、これまでの大技連の歴史を振り返り、今後の展望を記させていただければと思います。なお、沿革については、蔵前技術士会、鎗木氏の原文と、技術士稲門会、笹口氏の補足を参考に記載させていただきました。

《大技連の沿革》 ※以下、わかりやすさから、技術士会名ではなく大学名での記載としました。

- 2006（平成 18）年 10 月、早大、武工大、中大、東工大、理科大、千葉工大、日大の首都圏 7 大学の大学技術士会で連絡協議会を作るべく会合が持たれた。
- 7 大学の技術士会が発起人となり大学技術士会連絡協議会を設立することになり、それぞれの活動を基本に、協議会は穏やかな組織とし、役員は置かず世話人という形で運営することにした。
- 2008（平成 20）年 11 月、7 大学に工学院、東北大、阪工大、名城大、芝工大、慶大が加わった 13 大学で、第 1 設立総会を開催。目的は、①活動情報の交換、②会員募集目的の共同情報収集活動、③合同講演会の開催などの懇親活動が承認された。

- 2009（平成 21）年 6 月、第 2 回総会及び合同講演会（1 回目）を日大理工学部駿河台校舎にて開催
摂南大、室蘭工大、北海学園大（2013 年退会）が加わり、計 16 校となる。
- 2010（平成 22）年 11 月、第 3 回総会を開催
九工大、名工大が加わり、計 18 校となる。
- 2011（平成 23）年 9 月、合同講演会（2 回目）を開催
- 2011（平成 23）年 11 月、第 4 回総会を日本技術士会会議室にて開催
- 2012（平成 24）年 11 月、第 5 回総会を日本技術士会会議室にて開催
- 2013（平成 25）年 10 月、合同講演会（3 回目）を都市大（旧武工大：2009 年校名変更）世田谷キャンパスにて開催
- 2013（平成 26）年 11 月、第 6 総会を日本技術士会会議室にて開催
- 阪大、京大、電機大が加わり、北海学園大が抜け、計 20 校となる。
- 2014（平成 26）年度、第 7 回総会を開催
電通大、東北工大、近大、大阪産業大、中部大が加わり、計 25 校となる。
- 2015（平成 27）年 11 月、第 8 回総会（設立 7 周年）を日本技術士会会議室にて開催
- 2016（平成 28）年 11 月、横浜で開催の第 43 回技術士全国大会（日本技術士会創立 65 周年記念大会）の記念誌に「大学技術士会連絡協議会」の広告を掲載（以降、継続）
- この頃、発起人 7 大学＋工学院の 8 大学が中心となって世話役として運営していたが、加盟校も増えたことから、役割分担を明確化する検討が開始され、「大学技術士会連絡協議会運営規則」を準備作成。従来の世話役を幹事校と位置づけ、その数を 10 校程度として毎年見直すことなどが主な内容。次回総会にて決議することになった。
- 2017（平成 29）年 1 月 14 日、第 9 回総会を日本技術士会会議室にて開催
明大、農工大が加わり、計 27 校となる。
運営規則が承認され、初代の幹事校として、従来世話役であった 8 校に、近大、明大の 2 校を加えて 10 校で幹事会を組織することとなった。
- 2017（平成 29）年 11 月、第 10 回総会を日本技術士会会議室にて開催。記念講演は、都市大三木学長による「社会インフラの老朽化の現状と課題」
- 2018（平成 30）年 2 月、「第一次試験合格者ガイダンス」に各大学技術士会への勧誘を目的に大技連ポスター掲示（以降、継続）
- 2018（平成 30）年 11 月、第 11 回総会を日大駿河台キャンパス「タワー・スコラ」にて開催。
記念講演は、日大理工学部安部講師による「人力で空を飛ぶ技術と視点」
東海大、立命館、同志社が加わり、計 30 校となる。
本総会をもって幹事校の入替を実施。東工大、千葉工大、日大が抜け、代わりに名工大、京大、電機大が就任
- 2019（令和元）年度、東大、横国大、青学が加わり、計 33 校となる。
- 2019（令和元）年 11 月、第 12 回総会を都市大世田谷キャンパスにて開催。記念講演は、千葉工大惑星探査研究センター、和田主任研究員による「PERC とはやぶさ 2 の最新報告」
- 2020（令和 2）年度、放送大が加わり、計 34 校となる。
- 2021（令和 3）年 1 月、第 13 回総会を東京理科大学神楽坂キャンパスとオンライン併用のハイブリッドにより開催。
本総会をもって幹事校の入替を実施。早稲田、中大、理科大、名工大が抜け、代わりに東北大、中部大、東海大、東大が就任（事務局は早稲田、中大から都市大、明大に交代）

- 2022（令和4）年度、海洋大と徳島大が加わり、計36校となる。
- 2023（令和5）年3月、第14回総会を東京電機大学東京千住キャンパスとオンライン併用のハイブリッドにより開催。記念講演は、電機大小谷名誉教授・元学長による「脳磁波から解る脳の仕組み」
- 2024（令和6）年4月、第15回総会を早稲田大学西早稲田キャンパスにて開催。記念講演は、早稲田大柴山名誉教授による「高潮・津波がわかる～沿岸災害のメカニズムと防災」

以上

第14回総会の集合写真～東京電機大学東京千住キャンパスにて



2022年度大学技術士会連絡協議会 総会
(2023.3.11/東京電機大学東京千住キャンパス)

恒例となった年に一度の総会では、加盟校参加者間の親睦に加え、多分野の記念講演を聴講でき、また日本技術士会の役員や各委員長から技術士に関する最新の動向を聴取できることで、大変貴重な情報交換の場となっています。

連携としては、このほか、各加盟校の連絡担当者によるメーリングリストを作成し、各大学技術士会が主催する講演や見学会などのCPD活動や記念式典の開催案内を共有することで、技術士会の垣根を超えた交流を行っています。

現在の加盟校36校に加え、令和6年の総会では、大学技術士会創設準備中のオブザーバー校として、秋田大とお茶の水女子大の参加がありました。今後も、他大学のほか、近年第一次試験で多くの合格者を輩出している高専の加入も期待しているところです。

これからも、大技連のネットワークを通して、また日本技術士会との連携を深め、技術士制度の普及に貢献するとともに、大技連及び各大学技術士会の活動のさらなる充実を図っていきたいと考えています。

<記：大技連事務局 安部毅（柏門技術士会）>

第2章 中大技術士会発足 20周年を迎えて

2.1 中大技術士会の歴史

中大技術士会名誉顧問・初代会長 金川 護（上下水道・総合技術管理）

1. 前書

中大技術士会は発足以来 20 年になり、現在の会員数は 458 名（技術士 286 名、1 次試験合格者 155 名、準会員 17 名）です。ここまで発展してきたのは役員、幹事の皆様の尽力、理工学部の先生方の御協力があったからと感謝しております。

中大技術士会誕生時の話を中心に現在までの歴史を振り返ってみます。



2. 白門技術士会の誕生

中大技術士会の誕生はヒョンなことから起こりました。

2001 年 8 月に私は白門 35 会（中大の全学部を含む昭和 35 年卒の中央大学学会年次支部）の幹事会で 50 人近い幹事の皆さんに「環境の話」という題で講演をしました。幹事の中に中大の常任理事をされていた三宅邦彦さん（法学部卒）がいて、講演後、三宅さんから「理工学部の発展に力を貸して欲しい」と言われました。当時、中大理工学部の評価が高くなりつつあった時で、中大の経営陣も法科の中央と並んで理工学部をもう一本の柱にしようと思っていた時代でした。

2002 年 6 月に白門 35 会の旅行会で浜名湖館山寺温泉に行きました。また、三宅さんとお会いし、そこで技術士の話をしました。技術士試験は司法試験と同じくらい難しく、理工学系の最高の国家資格である。と説明しました。三宅さんは大変興味を持ち、中大卒業生で技術士は何人くらいいるのだろうという話になり、調べることになりました。

2002 年 10 月に、当時の日本技術士会の畠山常務理事にお願いし、中大から事務員を 1 名出してもらって、日本技術士会で当時登録されていた全国の技術士の経歴書を特別に調べさせて頂きました。畠山さんのお嬢さんが中大在学中ということで、畠山さんが中大に特別に好意を持っておられたことも幸いしました。

そうして集めた名簿には中大出身の技術士は 160 名でした。三宅さんに報告すると、そんなに大勢いるなら学会支部を結成できるから、中央大学学会白門技術士会支部を作れる。と背中を押されました。まさに三宅常任理事との出会いが中大技術士会誕生の一步となりました。

さて、私一人では何もできないので、仲間を作ることとし、日本技術士会上下水道部会の幹事仲間中大出身者の鈴木薫さんがおりましたので、2002 年 12 月に彼に声をかけると、二つ返事で了解を得ました。それから私は名簿に載った 160 名全員の技術士に電話を掛け、中大技術士会結成に参加くださるよう、お願いしました。拒否されたり、亡くなった方もおられましたが 100 名程の方から参加するとの了解が得られました。

鈴木さんはもっぱら外を回り、すでに結成されていた他大学の技術士会規約等を集めて、中大用の規約作りをしたり、学会本部を訪ね、支部結成の手続きを調べたりしました。

また、二人して白門技術士会の会長を誰に委嘱をするか、悩み、技術士資格を持った会社の会長、社長経験者を探しましたが、当時は該当する方がおらず、土木同窓会の舌間会長さんにも、良い人が居ないか相談したり、ずいぶん苦労しました。

結局、会長に適当な人が見つからず、言い出しっぺがやろうということで、年上の金川が会長に、年下の鈴木さんが幹事長になることで、白門技術士会を立ち上げることにしました。この間、発起人委員会の準備や設立趣意書の作成等忙しく働きました。

2003年12月に中央大学理工学研究所(現、中央大学理工学研究機構)所長の関口勲教授を訪問し、是非、白門技術士会を創れと激励されました。同月に幹事会を開催しました。

2004年1月に中央大学学会を訪問し、白門技術士会創設の意向を伝えました。ここから一気に設立に進みます。

2004年4月23日に白門技術士会第1回発起人委員会を開催しました。委員会には学会から宮川参事、理工学研究所から関口所長の出席を仰ぎ、16名の技術士が出席されました。

2004年5月7日に第2回発起人委員会が、6月7日には第3回発起人委員会が開催されました。そしていよいよ2004年6月19日(土)に白門技術士会設立総会が開かれました。場所は中央大学後楽園キャンパス6号館6202教室、出席者は30名でした。総会では、会長には金川護、副会長には渡邊潤三、藤森公彦、畑中勉、幹事長に鈴木薫さんが選任されました。

2014年の総会で私は会長を退き、2代目会長の内藤健一さんにバトンを渡しました。2021年に内藤さんがお亡くなり、坂林和重さんが3代目会長に就任されています。

3. 学会支部の誕生

白門技術士会誕生後、学会への支部申請をしましたが、受け付けてもらえませんでした。理由は学会事務局へ提出した設立当初の名簿を調べた結果、学会会費を支払っていない人が多く、支部成立要件である会費納入者100名を満たしていなかったからです。

それでも納入者は50名以上おり、「支部」ではなく「白門会」として認められ、2007年5月に正式に「白門技術士会」として学会への仲間入りが果たせ、学会総会の場で白門旗を授与されました。

その後、会員数も増加し、会員活動も活発化し、2011年5月に学会支部に昇格し、名称も「白門技術士会」から「中大技術士会支部」に変更し、支部旗も授与されました。

4. 技術士1次試験の学生への「技術士ガイダンス」

2011年から現役学生の勉学意欲向上のためと中大生に技術士制度を認識し、将来技術士試験に挑戦し、多数の技術士を生み出すことで、中大の評価を上げることを目的に「技術士ガイダンス」を実施しました。

2010年にあらかじめ学内の掲示板で学生にお知らせし、教室をお借りして、1次試験の説明会を開催しました。しかし、日本技術士会の試験部長さんまで来ていただいて準備していたのですが、待てど暮らせど1時間たっても一人の学生も教室に現れず、結局、説明会は中止となりました。学生は自ら情報を探して動くのではなく、こちらから積極的に情報を提供しなくては動かないことが解かりました。

そこで、学生にプッシュ型でPRすることとし、2011年からは先生方の御了解を得て、授業開始時の10分程を頂いて、理工学部3学年全員対象に1次試験受験申込書配布と1次試験の説明を始めました。配布数は毎年1,100部近くです。その甲斐があって在学生の1次試験合格者数が増えてきました。

2013年からは学生へのPRに加えて1次試験合格者数増加を目指して受験者対象に模擬試験を実施することとしました。模擬試験実現には当時の林知幸幹事長が試験問題を全て作るなど、大変ご尽力をされたことを付言しておきます。その結果2013年には在学生の1次試験合格者数は全国大学の中で3位となり、2014年から3年間は連続1位となりました。現状では連続2位となっています。

5. 中大技術士の活動

- 中大技術士会としては理工学部のキャリア教育として、2007年から1年生を対象に「科学技術と倫理」の講義を2名の技術士が担当しています。また、2011年から都市環境学科4年生を対象に「技術者倫理」の講義を14名の技術士が担当していました。

その後「キャリアデザインと倫理」と名称を変え、2022年からは担当する講師は3名となりました。

- 理工学部の先生とはいくつかの研究会を立ち上げています。

- ① 応用化学科大石教授とは「CO2環境対策技術研究会」
- ② 都市環境学科国生教授とは「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性研究会」
- ③ 精密機械工学科の中村教授とは「ミミズロボットの開発研究会」
- ④ 電気電子情報通信工学科の橋本教授とは「テクノロジー懇談会」
- ⑤ 人間総合理工学科の石川教授とは「グリーンインフラ研究会」

- 中大法曹会支部との連携。

毎年技術士と弁護士が集まり勉強会を開催しています。技術的支援等で、さらに強い繋がりを期待しています。

- その他の活動

- ①ホームカミングデイの出店で技術相談会を行っています。
- ②理工白門祭には6号館1階の玄関フロアに出店し、水素エンジンやレガシイな計算機を出展し、見学に来た中高生を楽しませています。

6. 終わりに

私は初代中大技術士会会長で会長退任後10年も経ちましたので、それ以後の中大技術士の活動は現役の皆さん程詳しくありません。したがって中大技術士会誕生の話を中心に書かせていただきましたことをご了解下さい。

今後も中大技術士会と中央大学理工学部の発展を祈念しております。

以 上



学員会総会での支部旗授与式

写真：中大技術士会 HP より

2.2 中大技術士会の活動内容

中大技術士会会長 坂林和重（電気電子部門）

中大技術士会の活動内容として、現在の体制と 30 周年に向けての運営方針、課題、皆様へのお願い事項について述べたいと思います。

1. 現在の体制

現在の中大技術士会は、会長（1 名）・副会長（3 名）・幹事長（1 名）を含めて全幹事が、21 名の体制となっています。

=====
【50 音順】岩瀬 暢男、大塚 仁司、大畠 利宏、小野塚 喜代一、加藤 行勝、國島 旭、黒澤 之、小林 進、小柳 拓央、坂林 和重、佐藤 儀一、澤田 泰希、篠崎 博文、清水 英樹、鈴木 薫、染谷 繁実、武安真児、田畑 琢己、萩野 太郎、松本 義弘、山下 三雄（以上 21 名）
=====

それぞれは、下記の担当をお願いしております。

会長：坂林和重

幹事長：國島 旭 総務部会長

主査：染谷 繁実（名簿管理担当）

主査：染谷 繁実（会計担当）

副会長：小林 進 広報部会長

副会長：武安 真児 企画部会長

主査：國島 旭（テクノロジー懇談会担当）

主査：國島 旭（ホームカミングデー担当）

副会長：黒澤 之 大学支援部会長

主査：黒澤 之（「技術士ガイダンス」「キャリアデザインと倫理」等担当）

主査：鈴木 薫（大技連担当）

主査：佐藤 義一（大技連担当）

主査：加藤 行勝（大技連担当）

主査：澤田 泰希（技術士第一次試験の合格率アップに向けた活動）



2. 30 周年に向けての運営方針

今までの 20 年の積み重ねの上に次の 10 年でさらなる飛躍ができればと思っています。

2.1 Zoom による活動の拡大

まずは、Zoom による活動の拡大をしたいと思います。Zoom を使うことで、今まで家庭やご本人の事情（家を空ける事ができないなど）で参加できなかった人が、参加できるようになります。例えば、足の骨折など病氣療養中でも、自宅から Zoom に参加できます。カメラとマイク付きのパソコンがあれば問題ありません。ぜひそのような人にも参加できるように、Zoom での活動を拡大したいと思います。

2.2 遠隔地からの参加の拡大

中央大学卒業生は、国内外で活躍しています。特に技術士を取得された技術者は、ODA（政府開発援助：Official Development Assistance）など海外で活躍されている人もいます。そのような人でも現地から中大技術士会に参加できるようにしたいと思います。例えば、従来は、北海道や九州・沖縄地区在住の技術士は、中大技術士会に参加できませんでした。海外出張中の人は、参加できませんでした。Zoom で参加すれば、場所や距離に制限されません。出張中などでもホテルから参加が可能です。アフリカや南米・ヨーロッパからでも参加が可能です。遠隔地からの参加を拡大したいと思います。

2.3 動画による活動の拡大

従来の中大技術士会の活動では、一過性のものもありました。例えば、大学教授の講演は、その時に会場参加しなければ、聴講する事ができませんでした。動画を記録することで、参加時間の制約から解放されます。何かの事情で参加できなかった講演を後日視聴できます。また、参加が前提の屋外活動も動画記録することで多くの人と情報共有することができます。動画視聴することで、疑似体験してもらうことができます。動画による活動の拡大をしたいと思います。

3. 課題

中大技術士会には、下記4つの課題があります。

- 課題1 技術士試験について
- 課題2 大学支援について
- 課題3 技術者倫理・持続的環境について
- 課題4 会員のメリットについて

No	第一次試験	No	第二次試験
1	私立大学1	1	国立大学A
2	中央大学	2	国立大学B
3	国立大学1	3	国立大学C
4	私立大学2	25	中央大学

「課題1」については、第一次試験で大学別で日本一になる事です。また、第二次試験では、大学別で5位以内に入りたいと思っています。そのためには、第一次試験の周知と受験と考えています。第一次試験合格者人数は、(受験人数) × (合格率) = (合格者人数) です。現在第1位の私立大学1の合格者人数を上回るには、合格率100%でも厳しい状況です。受験人数の増加が必須と考えています。

「課題2」については、最新技術を広めるのが技術士の役割だと考えます。それが、高等の専門的応用能力の一つだと思います。その意味で、大学の研究室と交流を深めて研究テーマの実用化支援と企業への橋渡しができればと思います。技術士は、企業内技術士・独立技術士のいずれであっても産業界とのつながりを持っています。そのつながりを生かすことで大学と企業とが Win-Win の関係になればと考えています。

「課題3」については、授業を通して技術者倫理と持続的環境政策を広めることができればと思います。そのため、大学への講師派遣の協力と、より充実した支援・授業ができればと思います。技術士は、長い実務経験を持っています。その実務経験から、在学生に還元すべき知識があります。SDGsを始め未来を考えた時、中大技術士会のメンバーの実務経験を在学生に還元することは、有意義と考えます。

「課題4」については、会員相互のネットワークを構築してコミュニティーを形成し、会員のメリットを増進したいと思います。母校への貢献の場を多くの人へ提供します。そして今よりもさらに参加したい中大技術士会になればと思います。昨今では、日本人の長寿命化と日本社会の少子高齢化が叫ばれています。80歳現役が当たり前の時代になっています。また30歳現役で活躍している企業内技術士も多数存在しています。そのような会員相互のネットワークを構築し会員相互間の連携を深めていただければと思います。また、母校への貢献をしていただければと思います。他の学員会支部との連携を深めさせてもらえればと思います。

4. 皆様へのお願い事項

中大技術士会の会員は、実務家として「自然科学で高等の専門的応用能力を必要とする計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務」の得意なベテラン技術者です。中大技術士会から提案していきますが、もし何かあれば、会へお声掛けいただければと思います。皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。何卒、中大技術士会をよろしく願いいたします。

2.3 中大技術士の運営体制について

中大技術士会 幹事長 國島 旭（機械部門、総合技術監理部門）

中大技術士の会則に則り、会の活動の活性化の観点などから、会長、副会長、幹事長、幹事による会の運営の他に、会則第三条 2 項に基づき、「部会」と「研究会」を立ち上げて、下記の活動を行っています。



- 1) 部会は会の運営を組織的に実施するため、総務部会、広報部会、企画部会、大学支援部会を置いて活動している。
 - ① 総務部会：部会長（幹事長）：会の総会、幹事会の開催・運営、名簿の管理、会計管理、学員会事務局との連絡調整、日本技術士会との連携、他大学技術士会との連携
 - ② 広報部会：部会長（副会長）：ホームページの管理、ニュースレターの発行、本会の活動紹介等
 - ③ 企画部会：部会長（副会長）：講演会の開催、白門祭等の企画運営、他学部との連携
 - ④ 大学支援部会：部会長（副会長）：理工学部との連絡調整（各学科技術士ガイダンスも含む）、技術者倫理講師派遣の連絡調整、理工学部の研究開発・知財支援

幹事以上は、上記の何れかの部会に所属して責任者として活動を行なうこと。

- 2) 研究会は、理工学部の研究開発を発展させるため、各学科、各教授の研究開発に対して技術士の立場で各研究テーマについて研究会を設け、勉強会、講演会、見学会等を行い、研究の企業化可能性調査や実用化・製品化の支援等を行い、各研究テーマが世の中に貢献することを目的として活動する。

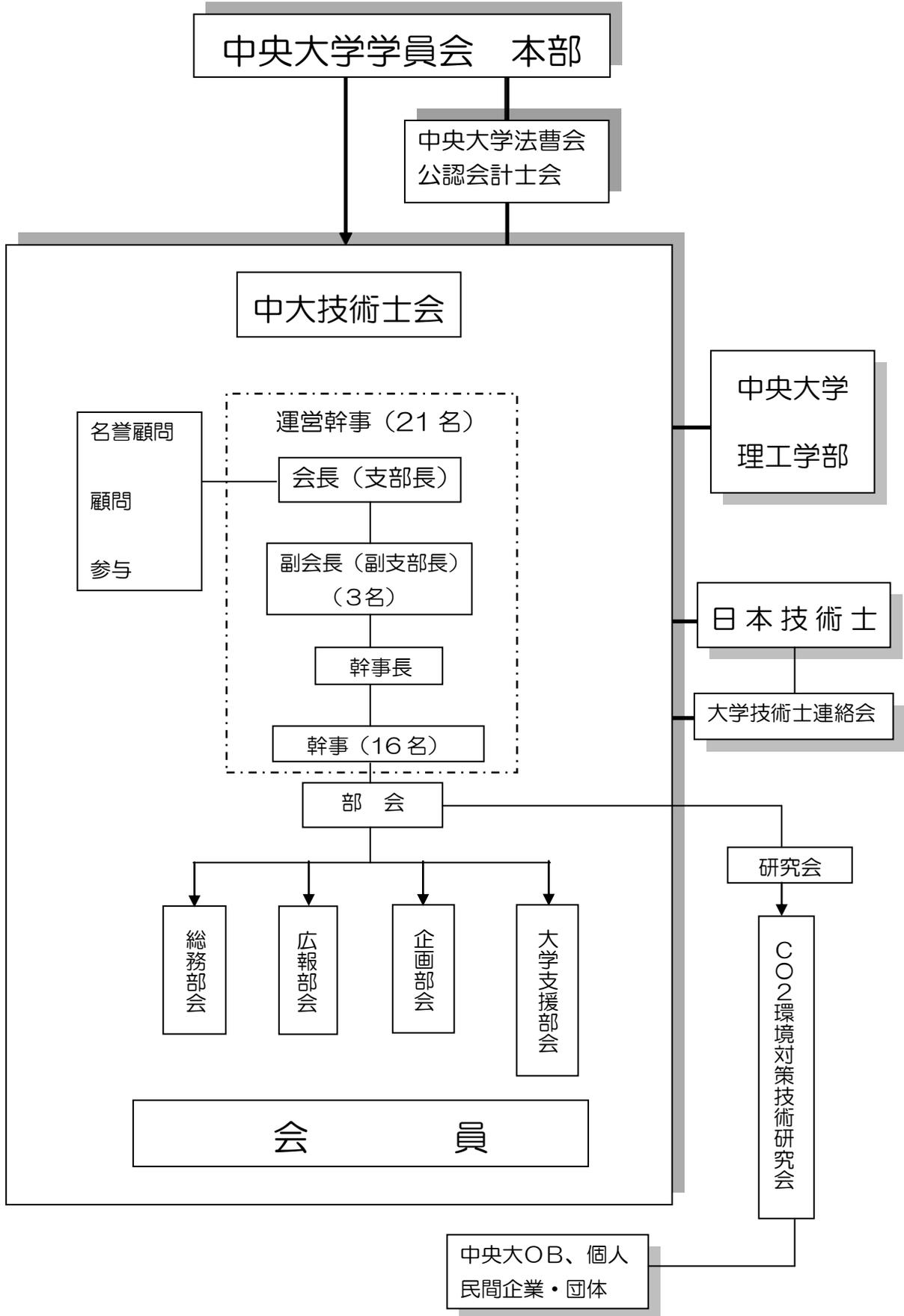
ただし、この研究会は、本研究会趣旨に賛同する会員以外の企業団体、個人も含めるため、中大技術士の外部組織として中大技術士会が支援団体として対応することとした。現在活動している研究会は以下の通りである。

- ① CO2 環境対策技術研究会：応用化学科 大石教授の「CO₂固定化研究」の支援。
(村上会長、大石副会長、金川名誉顧問)

10周年から20周年の期間中に終了した研究会は以下の通りです。

- ② 洋上太陽光発電研究会：都市環境学科 国生教授発案「ソーラーセル太陽光発電構想」の支援。(中尾参与)。
- ③ ロボット研究会：精密機械工学科 中村教授「ロボット研究」を支援し、企業との共同研究の推進。(金川名誉顧問)。

大技術士会 組織運営体制



24 第10期の運営幹事

中大技術士会 幹事長 國島 旭（機械部門、総合技術監理部門）

2024年5月時点の運営幹事の一覧を示します。

役職	氏名	卒業年次・学科	所属
会長	坂林 和重	昭和56年大学院電気工学専攻	JSE 技術士事務所
副会長	武安 真児	昭和55年理工学部土木工学科	武安技術士事務所
副会長	小林 進	昭和55年大学院電気工学専攻	小林進IT&E 技術士事務所
副会長	黒澤 之	平成31年博士後期課程土木工学専攻	(株)環境技術研究所
幹事長	國島 旭	昭和62年大学院精密工学専攻	ボッシュ(株)
幹事	山下 三雄	昭和48年理工学部土木工学科	(株)みちのく計画
幹事	鈴木 薫	昭和44年理工学部土木工学科	鈴木技術士事務所
幹事	萩野 太郎	昭和40年理工学部工業化学科	萩野技術士事務所
幹事	染谷 繁実	昭和47年理工学部管理工学科	染谷技術士事務所
幹事	加藤 行勝	昭和48年理工学部工業化学科	加藤技術士事務所
幹事	清水 英樹	昭和63年理工学部土木工学科	前田建設工業(株)
幹事	松本 義弘	平成元年理工学部電気工学科	JR 東日本エネルギー開発(株)
幹事	篠崎 博文	昭和59年理工学部精密機械工学科	バイオメカニクス整体技研
幹事	小柳 拓央	平成4年理工学部土木工学科	(有)小柳塗工所
幹事	佐藤 儀一	昭和46年理工学部土木工学科	G.SATO 技術士事務所
幹事	小野塚 喜代一	昭和48年理工学部管理工学科	(株)フジヤマ東京支店
幹事	岩瀬 暢男	昭和45年大学院電気工学専攻	コーヒーレント研究所
幹事	大塚 仁司	昭和48年理工学部物理学科	(株)アイヴィス
幹事	大畠 利宏	昭和56年理工学部土木工学科	中央技術株式会社
幹事	田畑 琢己	平成16年法学部通信教育課程	埼玉県庁
幹事	澤田 泰希	平成24年理工学部土木工学科	清水建設(株)
名誉顧問	金川 護	昭和35年理工学部工業化学科	金川技術士事務所
顧問	藤森 公彦	昭和45年理工学部土木工学科	藤森技術士事務所
顧問	渡邊 潤三	昭和36年法学部法律学科	渡邊特許事務所
参与	相澤 謙次	昭和40年理工学部工業化学科	相澤技術士事務所
参与	仲摩 俊男	昭和57年理工学部電気工学科	(株)関電工
参与	田原 達人	昭和44年理工学部土木工学科	いであ(株)
参与	河原 進	昭和35年理工学部土木工学科	(株)プライムプラン
参与	志田 俊一	昭和47年法学部	水ing(株)
参与	西川 和也	昭和56年理工学部土木工学科	西川技術士事務所
参与	大澤 勇	昭和41年理工学部工業化学科	大澤技術士事務所
参与	足立 元良	昭和47年理工学部土木工学科	ポートコンサルタント(株)
参与	中尾 愛人	昭和46年理工学部電気工学科	—
参与	君島 光夫	昭和36年理工学部土木工学科	—
参与	渡辺 利道	昭和52年理工学部土木工学科	あい設計株式会社
参与	佐伯 博之	昭和56年理工学部土木工学科	(株)ピーエス三菱
参与	今野 武	平成11年法学部政治学科	(株)アクア・ソリューションズ
参与	木内 希沙彦	昭和51年法学部通信教育課程	木内技術士事務所

第3章 活動内容の紹介

3.1 総務部会の紹介（國島 旭幹事長）

総務部会の主な活動内容として①幹事会運営、②名簿管理について紹介します。

3.1.1 幹事会運営

2004年(平成16年)6月に発足した“白門技術士会”は、多くの実績を重ね、本年、2024年/令和6年に、中央大学 学員会支部の“中大技術士会”として、20周年を迎えることができました。

この間、会則に掲げた「目的」を達成すべく様々な企画を実行してきました。各種企画の立案から実践に幹事諸兄のご尽力で実績を重ねて今日に至っています。2010年から幹事会活動として下記の4部会を設けて、全幹事が何れかの部会に所属して活動を行ってきました。

部会名	部会長	主な業務
統括	会長	・活動全般把握
総務部会	幹事長	・総会・幹事会の開催、運営 ・会則の運営、改訂に関する手続き ・名簿の管理、会計管理 ・学員会事務局との連絡調整 ・日本技術士会との連携 ・他大学技術士会との連携等 ・その他
広報部会	副会長	・ホームページの管理 ・ニュースレターの発行 ・本会の活動紹介等 ・その他
企画部会	副会長	・講演会の開催 ・白門祭等の大学行事企画・運営 ・学部並びに学員会他支部との連携等 ・その他
大学支援部会	副会長	・理工学部との連絡調整（各学科技術士ガイダンスも含む） ・技術者倫理講師派遣の連絡調整 ・理工学部の研究開発・知財支援等 ・他大学技術士会との連携等 ・その他

この結果、個人への過重な負担が軽減され、多くの行事が定期化されるようになりました。今後は各部会の担当者に過度な負担がかからないように全員で協力し合いながら、会員へのサービス提供の向上に努めていきます。

3.1.2 名簿管理

総務部会のもう一つの柱は会員増加に努めることです、この活動はなかなか思うように前進していません。毎年12月に第一次試験合格者発表、3月に第二次試験合格者発表されます。中大技術士会の会員数は2014年3月の292名から2024年3月の457名に、この10年間で会員数は167名が増えました。しかし、次頁の技術士試験の合格者数から観れば、当会への入会者数は、まだまだ少ない状況になっています。この現象は、公益社団法人日本技術士会の各委員会および大学技術士連

絡協議会所属の各大学の共通の課題になっています。「会員を増やす」課題に対する対策としては、「技術士の魅力」と「組織活動の活性化」が重要になります。まずは、当会の活動が各会員に「還元できる企画」を提案し続けること、この地道な活動に尽きます。それには日本技術士会の各委員会の活動を紹介しながら、「技術士」の社会的地位向上に対して、微力ながら組織の力を貯えていきたいと考えています。

過去10年間の合格者の推移を下表に示します（在校生＋社会人の合計）。

	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年	
	一次	二次								
合格者数	226	56	192	39	237	49	241	41	165	19
順位	6	12	7	25	5	16	3	24	6	34

	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	一次	二次								
合格者数	128	27	102	31	120	30	133	32	102	30
順位	8	33	10	18	9	28	8	23	12	24

上表に示したように、ここ数年の大学別ランキングは、概略、同様な順位で推移しています。第一次試験に比べて第二次試験の合格者が少ないのは技術士試験の難易度を示しています。

技術士第一次試験の合格から第二次試験の合格に繋げて、晴れて「技術士：Professional Engineer」の資格取得を目指してもらえる様な活動を行っていきます。

「3.3 大学支援部会の紹介」に記載している通り、在校生を対象に「技術士第一次試験の模擬試験」を実施して、2014年から2016年まで3年連続で在校生の第一次試験の合格者数で中央大学は全国の大学で第1位になりました。このことは特筆すべき成果になります。また、2021年と2022年は二年連続で在学生の合格者数で全国二位になっています。

今後も大学との連携を深め、更なる実績を重ねていきます。中大技術士会に入会するとメリットがあると感じて頂ける様な、有益で魅力的な行事を企画して、組織率の向上なども図っていきます。



理工学部事務室前に展示されている感謝状

3.2 企画部会の紹介

中大技術士会副会長 武安真児（情報工学・総合技術監理部門）

3.2.1 企画部会の活動概要

企画部会では、中大技術士会の主催行事の企画や、大学や学会主催行事への参加の企画、他学会支部との連携などを行っています。

企画部会は、前会長の内藤堅一さんが企画部会発足時より企画部会長として担当されていましたが、2014年に内藤堅一さんが中大技術士会会長に就任されたため、武安が企画部会長を引き継いで現在に至っています。



1. 中大技術士会の主な主催行事としては、講演会の開催があります。

講演会は、2005年3月に情報工学科教授の牧野光則先生にJABEEに関する講演をしていただいたのが最初で、それ以降年に2～3回の講演会を開催しています。

講演会の講師としては、最初のころは外部の講師をお願いしていましたが、その後中央大学の先生に講師をお願いすることが多くなり、現在では卒業生である会員が学内でどのような研究が行われているのかを知る良い機会となっています。

また、中大技術士会の会員、大学の先生、学生が集まって技術的な課題について話し合う、テクノロジー懇談会を2013年より開催していましたが、なかなか会としての拡がりが見えないため、2016年の開催を最後に一時休会して、今後開催について検討することになりました。

2. 大学や学会主催行事への参加としては、理工白門祭への出展とホームカミングデーへの出店があります。

理工白門祭は、学生の組織である白門祭実行委員会が運営するイベントですが、中大技術士会は2008年より「中大技術士会無料相談会」として理工白門祭への出展を行い、「技術士制度」や「技術士試験」の説明を行うことにより、技術士を広く知ってもらう活動を行っています。

一方、ホームカミングデーは、学会が主催するイベントですが、中大技術士会は法曹会、会計人会、司法書士白門会などの他の支部と一緒にブースを並べて「技術無料説明会」という企画でホームカミングデーへの出店を行っています。

3. 他学会支部との連携では、主に法曹会との連携を行っています。

法曹会の連携では、中大技術士会・法曹会交歓会を定期的で開催して、講演会・交流会を通じて法曹会の弁護士さんとの交流を深め、今後業務につなげるような活動を行っています。

また、公認会計士会とは、具体的な行事などの企画はありませんが、連絡を継続的にとって、何か連携ができないか機会を探っている状況です。

3.2.2 中大技術士会講演会

中大技術士会講演会は、新型コロナ禍以前は、定時総会時に開催される特別講演会の他、講演会を年に1～2回開催していましたが、2020年の新型コロナ禍が起きてからは、講演会場に会員が集まるのが難しくなってきたため、感染状況を見ながらオンラインでの開催またはオンラインと会場のハイブリッド開催を行っていました。

2024年以降は、会場での開催が主流になると思われますが、中大技術士会に限らず一般的に講演会がオンラインで開催されるようになって、会員もオンライン開催に慣れてしまっている現状では、コ

コロナ禍前と同じようには開催できないことが予想されるため、今後開催方法について検討が必要になると思われます。

2014 年度以降に開催した講演会は以下の通りです。

(2013 年以前については、創立 10 周年記念号 (ニュースレターVol.22) に掲載しています)

年度	講演会	総会時特別講演
2014 年	人間総合理工学科教授 石川幹子 氏 「社会資本整備の新しい潮流 -自然・人・コミュニティと環境デザイン」 情報工学科教授 牧野光則 氏 「中大・理工・情報における CG・VR 研究・教育のご紹介」	副学長 経営システム工学科教授 加藤俊一 氏「人間の感性を測る -人の多様性と生活を楽しむ技-」
2015 年	都市環境学科教授 山田正 氏「ゲリラ豪雨や洪水等の水災害から生活や安全を守る -河川決壊事故のメカニズムや降雨流出現象の解析について-」	理工学部長 物理学教授 石井靖 氏 「合金による貴金属の代替 -固体電子論と元素戦略-」
2016 年	電気電子情報通信工学科准教授 諸斐俊司 氏「医工学連携による医療福祉機器の開発」	応用化学科教授 小松晃之 氏「人工血液が日本の未来を救う」
2017 年	人間総合理工学科教授 石川幹子 氏 「新しい国土・地球環境を支えるグリーンインフラの展開に向けて」	情報工学科教授 田口東 氏「東京オリンピック観戦客輸送の余裕を首都圏電車ネットワークは持っているか」
2018 年	都市環境学科教授 佐藤尚次 氏「構造物の信頼性と品質の指標について ~「信頼性設計法に基づく土木構造物の性能照査ガイドライン」を例として~	都市環境学科教授 榎山和男 氏 「VR 技術を用いた騒音シミュレーションとその可聴化」
2019 年	新型コロナウイルスの影響により実施せず。	人間総合理工学科准教授 山村寛 氏 「人口減少社会に向けた“スマート”な上下水道インフラ」
2020 年	新型コロナウイルスの影響により実施せず。	都市環境学科教授 山田正 氏「近年の豪雨災害と今後の技術対策への一考」 (オンラインにて開催)
2021 年	新型コロナウイルスの影響により実施せず。	中大技術士会幹事 小柳拓央 氏 「技術士 魂の伝承 ~人生を切り拓く技術士資格の活用法」 (オンラインにて開催)
2022 年	新型コロナウイルスの影響により実施せず。	中大技術士会会長 坂林和重 氏 「技術士第 1 次試験の勉強方法、および、第 2 次試験の試験制度と採点基準」 (会場とオンラインのハイブリッド開催)

3.2.3 法曹会との連携

法曹会との連携は、定期的な交歓会の開催という形で行っていて、第 1 回の交流会は平成 23 年の 11 月にレストランを貸し切って交流会のみで開催しましたが、第 2 回以降は、講演会を開催した後に会場を移して交流会を行うという形で開催しています。

第 2 回の交歓会は、中大技術士会が幹事となり、後楽園キャンパスにて講演会を開催し、これ以降中大技術士会と法曹会で幹事を交代して毎年開催していましたが、第 7 回以降は法曹会から毎年の開催は参加者を集めるのが難しいということで、隔年での開催となりました。

しかし、法曹会との交歓会も新型コロナ禍の影響を受けて、2020年に開催予定だった第8回の交歓会は、新型コロナの感染状況を見ながらの開催となり、2023年になって開催することができました。

今までに開催した法曹会との交歓会を下記に示します。

回	開催年月日 (担当)	講演会	交流会 会場
1	2011年 11月10日 (法曹会)		ホテルモントレ ラ・スールギンザ レストラン「サンミケ ーレ」
2	2012年 10月4日 (技術士会)	会場：後樂園キャンパス6号館6318教室 講演：中大技術士会会長 金川 護 氏 事故発生の原因調査の実例	風我
3	2013年 12月2日 (法曹会)	会場：駿河台記念館650会議室 講演：弁護士 伊東 芳生 氏 「交通事故紛争における事故原因の技術的な解明」	御茶ノ水LEN
4	2014年 11月17日 (技術士会)	会場：後樂園キャンパス2号館8階 2841 セミナー室 講演：中大技術士会幹事長 林 知幸 氏 「廃水処理方法の選定が肝心 クライアントの 切なる思い」	後樂園キャンパス 2号館9階ラウンジ
5	2016年 2月15日 (法曹会)	会場：ユニゾ御茶ノ水ビル2階 講演：弁護士 嶋田貴文 氏 「マンションの工事の瑕疵を巡る問題－耐震ゴム 偽装を例として－」	聖橋 鳥福
6	2016年 12月7日 (技術士会)	会場：後樂園キャンパス6号館6418教室 講演：中大技術士会幹事 國島 旭 氏 「私が経験した問題解決方法(PL案件/公共事業 /交通事故)」	後樂園キャンパス 5号館地下 生協食堂
7	2018年 5月10日 (法曹会)	会場：駿河台記念館550会議室) 講演：弁護士 矢部耕三 氏士 「弁護士と技術士の業務・・・その接点とさらなる 可能性」	矢まと 御茶ノ水店
8	2023年 5月12日 (技術士会)	会場：駿河台キャンパス18階学会会議員室1 講師：中大技術士会幹事長 國島 旭 氏 「法曹会から中大技術士会に依頼のあった道路工 事現場で起きた車両事故の控訴対応について(民事)」	矢まと 御茶ノ水店

3.2.4 理工白門祭

中大技術士会は、2008年より理工学部で開催される理工白門祭に毎年出展を行っていましたが、2020年からの3年間は新型コロナ禍で理工白門祭も学内での開催からオンラインによる開催に変わり、中大技術士会も理工白門祭への出展が困難になりました。しかし、2023年には理工白門祭が4年ぶりに対面で開催されるようになり、中大技術士会も出展することができました。

しかしながら、この3年間のブランクは、学生にとってはかなり大きく、在学生の中では4年前の理工白門祭を知っている学生がいないため、参加方法や出展方法も4年までとはかなり異なっており、出展手順に戸惑うこともあり、さらに、学生から見ると学生ではない中大技術士会が理工白門祭に出展する理由が学生にはわからないため、最初は学生も戸惑っていましたが、過去の出展内容を説明して出展することができました。

出展場所は、2008年の最初の出展時より、6号館1階の学部事務室前の場所を提供してもらっていますが、この場所は6号館の教室の入口にもあたるため、多くの来場者の目に触れる場所ということもあって多くの人に立ち止まっていただくことができました。

出展内容は、2008年の最初の出展ではパネル等の展示のみでしたが、2009年からは、スターリングエンジン、燃料電池、ガラスシリンダーエンジン等の教育用機材をお借りして展示していました。また、2016年からは、教育用機材の代わりに、会員が所有する古い計算機や電卓、パソコンの展示を行うようになっていきます。

出展は、企画名を「中大技術士会無料相談会」として、技術相談や技術士試験受験相談を主目的として行っていますが、当初は「中大技術士会」や「技術士制度」を来場者にアピールすることと、技術士試験の受験者を増やして、技術士の仲間を増やしていくことも大きな目的でした。

ただし、現在では「技術士試験」の在学生への周知や、技術士第一次試験模擬試験を学内でやっているため、今後はより具体的な「技術士制度」や「技術士試験受験」に対する質問に答えたり、理工白門祭への出展をきっかけとして、一般の来場者への「技術士」の知名度を増やしていくことがより重要になっていくと思われます。



2023年理工白門祭出展の様子

3.3 大学支援部会の紹介

中大技術士会副会長 黒澤 之（建設・衛生工学・応用理学・総合技術監理部門）

大学支援部会では、技術士試験受験啓発と理工学部への講師派遣を主要な活動としています。



3.1 技術士試験受験啓発

現在、現役在学生の技術士第一次試験合格者人数を大学別で全国トップを目指して取り組んでいます。また、OB や OG に対する技術士第二次試験の受験支援をいかに整備すべきかが課題です。

第一次試験は、現役学生が 2022 年度の出題傾向に的確に追随しました。全国国公立大学 780 校の第 2 位を保っています。2024 年は、2 月 26 日(月)に発表された全合格者数は 6,601 人で合格率は 39.7%と門戸が狭まっています。今後、大学別の数字が明らかになってきます。

第二次試験は、出題方法は変わらないものの、採点方法に変化が出ており、記述内容重視になっています。2022 年度における中央大学卒業生の合格人数は、780 校中で第 25 位（32 名合格）と低迷しています。今後も試験の動向に注視し、合格者人数を上げていきたいところです。

3.1.1 技術士ガイダンスの実施

理工学部との連絡調整のほか、学生が在学中に技術士の第一次試験を積極的にチャレンジするよう技術士ガイダンスを実施しています。JABEE 認定校の卒業生は、第一次試験の受験が免除となりますが、本学は理工学部学生には、在学中に技術士の第一次試験の関門を突破する実をつけてもらいたいという願いのもとに 2011 年 12 月から取り組んでいます。従来から坂林会長や幹事が精力的に取り組んでいます。各学科の先生方にもご協力をいただき、講義時間の枠をガイダンスのために割いていただいています。

ガイダンスの主な目的としては、次のとおりです。

- ① 現役在学生の勉学向上
- ② 就職活動の一助
- ③ 就職後における活躍の場の拡大
- ④ 中央大学の評価の向上

当初は、公益社団法人日本技術士会のご支援を受け、教室において資格紹介を行いました。この取り組みもあって、2012 年度には待望の合格者を輩出しています。これで勢いをつけ、合格者の体験談をガイダンスに加えていきました。2012 年 6 月からは、学生に受験願書の配布を始めています。近年は新型コロナウイルス感染症対策の影響もあって、リアル開催を見送ってきましたが、大学からの要望を受けてオン・デマンド（動画）作成を試みています。

3.1.2 模擬試験の実施

理工学部長の協力を受け、模擬試験の実施を始めてから既に 10 年の歴史を積み重ねてきました。

近年は新型コロナウイルス感染症対策に阻まれましたが、厳重な対策のもとで 2022 年 11 月 19 日に実施した模擬試験では、42 名が参加しました。

2023 年度は対面にて 10 月 14 日（土）に実施し、34 名の参加者が模擬試験に挑みました。（結果は表のとおり。）

2023 年度模擬試験結果

科目	合格者人数	参加者数
基礎科目	20	26
適性科目	18	26
専門科目	14	26
全科目総合	10	26

この時は申込者数 55 名に対して参加者数は 26 名と 6 割程度にとどまりました。特に土曜日の開催で授業が重なった学生もおり、電気電子通信工学科の参加者がいませんでした。参加者数の低迷は我々の PR 不足と認識をしています。その一方、学生諸君においても自分から情報を取りに行くような意識を持っていただくことも重要と考えています。模擬試験の設問にあたっては、社会情勢に合ったオリジナル予想問題の準備を通して、参加者の期待に応えてまいります。

3.1.3 第一次試験合格者の表彰

技術士試験受験啓発の一環として第一次試験合格者の理工学部長表彰を行っています。2023 年は 3 月 11 日に、2024 年は 3 月 16 日に実施となりました。この時、学生諸氏の意識を高揚すべく、記念講演と交流会を設定するなど、学生諸氏の関心を惹く努力をしています。

3.2 授業への講師派遣

3.2.1 科学技術と倫理

2007 年から理工学部 1 年生を対象に選択科目「科学技術と倫理」を村岡晋一教授の下で講義 10 コマのうち 2 コマを担当させていただいています。具体的には本会幹事 2 名を講師（ゲストスピーカー）として毎年派遣してきました。

現在は寺本 剛教授のもとで取組を継続しています。直近の 2023 年度前期には火曜日・6 限（18：50～20：30）に設定され、そのうち第 7 回の 5 月 30 日に大畠利宏幹事が、第 8 回の 6 月 6 日には山下三雄幹事が講義を行いました。2024 年度の前期にも「科学技術と倫理」（火曜日・6 限 18：50～20：30）として開講しており、第 7 回の 5 月 30 日に大畠利宏幹事を、第 8 回の 6 月 4 日に小柳拓央幹事を派遣します。

3.2.2 キャリアデザインと倫理

この科目は平川大貴教授のもと、卒業後のキャリアを意識する 3 年生を対象に開講しています。

2020 年度は、講師を派遣し、5 月 26 日に中尾愛人幹事が「水インフラ現場技術者と倫理」、6 月 2 日に山下三雄会員が「私の職務経験を通して技術者倫理について考える」とそれぞれ講義を受け持ちました。

2021 年度には 7 名（坂林和重会長、國島 旭幹事、小柳拓央幹事、篠崎博文幹事、松本義弘幹事、大畠利宏幹事、伊藤敏郎幹事、）が対応し、以降も派遣を継続しています。

2023 年度からは都市環境学科科目となり、シラバスとして次のような構成で、3 名の会員を派遣しました。2024 年度もほぼ同様の対応となります。

第 1 回 授業ガイダンス(授業の目的、進め方、評価方法) [担当：平川大貴教授]

土木技術者の働き方とキャリアデザインー総合建設業ー

第 2 回 土木技術者の働き方とキャリアデザインー公官庁ー

第 3 回 土木技術者の働き方とキャリアデザインー設計・施工ー

- 第4回 土木技術者の働き方とキャリアデザインー素材(セメント)ー
- 第5回 土木技術者の働き方とキャリアデザインー橋梁製造メーカーー
- 第6回 土木技術者の働き方とキャリアデザインー建設コンサルタントー
- 第7回 土木技術者の働き方とキャリアデザインーコンサルタント(都市計画)ー
- 第8回 土木技術者の働き方とキャリアデザインーコンサルタント(河川)ー
- 第9回 エンジニアリングマネジメント
- 第10回 海外プロジェクト
- 第11回 土木・都市環境の構想・計画段階調整とステークホルダー [担当：黒澤之会員]
- 第12回 ゼネコンで描く土木技術者としての道と、その心構え [担当：澤田泰希会員]
- 第13回 キャリアデザインは考え方・熱量・能力、技術者は利他の心で [担当：堀江岳人会員]
- 第14回 土木技術者としての技術者倫理、授業の総括 [担当：平川大貴教授及びゲスト]

3.2.3 その他

過去の実績として、2010年度から2020年度まで、國生教授、斎藤教授や佐藤教授指導の下、理工学部都市環境学科4年生を対象に必須科目「技術者倫理」を受け持ち、毎年7名から14名の中大技術士会会員を講師(兼任講師)として派遣してきました。2020年度のカリキュラム変更に伴い都市環境学科4年次の技術者倫理の講義は終了しています。

なお、今後も講師派遣要請があった場合には、本会として積極的に協力をしてまいります。



在学生を対象とした技術士制度説明会の様子

3.4 広報部会の紹介

中大技術士会副会長 小林 進（情報工学・総合技術監理部門）

3.4.1 活動概要

広報部会は、中大技術士会の情報発信を担うために主に次の3つの活動を行っている。

- ①中大技術士会のホームページの運営
- ②メーリングリストの管理
- ③ニュースレターの発行

3.4.2 広報部会の生い立ち

（1）ホームページの立ち上げ

中大技術士会発足当初は、広報部会は存在しなかった。私の記憶では、会を運営する資金が全く無い状態で、会員同士の連絡手段にメールを使うという発想が始まりだったように思う。このような中で、当時購入していたホームページビルダーの勉強を兼ねて作成したものが、現在の中大技術士会のホームページである。そのため、CMS(Contents Management System)は使用せず、完全に手作りのためデザイン的にも古く、見映えも今一つという、完全に手作りホームページである。そのため、私個人としては愛着はあるが、会員の皆様にどのように見られているかの一抹の不安もある。

このような経緯で立ち上げたホームページであるが、経費をかけずに Web サーバーとメールサーバーを使用するために無料のプロバイダーを探して立ち上げたが、そのプロバイダーがサービスを取りやめたことから現在使用しているサーバーに移行し、「chuo-u-pej.org」のドメインを取得し、現在に至っている。また、サーバーの移行に伴い、メーリングリストの利用も可能になり、表1に示すメーリングリストを立ち上げ、その管理を行っている。

表1 主なメーリングリスト

項番	メーリングリストアドレス	役割
1	info@chuo-u-pej.org	会から会員に講演会開催の連絡、ニュースレターの配付などの情報発信用
2	toiwase@chuo-u-pej.org	会員から住所変更などの会への連絡用
3	kanji@chuo-u-pej.org	運営幹事間の連絡用

（2）ニュースレターの発行

中大技術士会発足してから間もなく、当時、幹事であった笹尾さんからの提案により、ニュースレターを発行することになり、2005年8月25日に記念すべき第1号が発行された。発行当初は、提案した笹尾さんが一人で、計画を立て、幹事会で原稿を集めて行っていたこともあり、年に1回発行することで始まった。この頃は、笹尾さん一人で担当されていたこともあり、かなり苦労されていたのではなかと思う。

（3）広報部会の誕生

このような中で、中大技術士会が学会支部に移行することが具体的になり、当時の藤森副会長からの提案により部会を立ち上げることになり、幹事は総務部会、広報部会、企画部会、大学支援部会のいずれかに属することになった。当時、私がホームページの運営管理を行っていたこともあり、自然と広報部会長を拝命することになり、ニュースレターの発行も広報部会が担当することになり、現在に至っている。



3.4.3 現在の活動

広報部会で行っているホームページの運営、メーリングリストの管理、ニュースレターについて紹介する。

(1) ホームページの運営

立ち上げ当初から全く変わっていないが、現在のホームページの初期画面を図1に紹介する。



図1 ホームページの初期画面

ホームページの構成について紹介する機会がないため、ここで少し紙面を割いて紹介したい。創立10周年記念号にも記載しているが、中大技術士会の活動情報の保管庫として運営している。そのため、図1の①新着情報にはホームページを立ち上げてからの更新履歴を全て載せている。アクセスして表示されているところには、最新情報が表示されているが、プルダウンすることで2011年頃からの更新情報を全て見ることができる。

次に、左サイドのメニューの②活動履歴には、主な活動内容を見ることができる。ここをクリックすると図2のように活動履歴の一覧表が表示される。この表の議事録欄の「出典の様子」などをクリックすると活動いた様子を写真等で紹介しているの、是非、一度見て欲しい。

年月日	件名	議事録
2023年11月4～5日	第57回理工白門祭出展報告	出展の様子
2021年10月9日	中大技術士会第17回定時総会	総会の様子
2020年10月3日	中大技術士会第16回定時総会	総会の様子
2019年6月8日	中大技術士会第15回定時総会	総会の様子
2017年6月3日	中大技術士会第13回定時総会	総会の様子
2017年5月27日	中央大学工学部理工学研究所都市人間環境学専攻設立祝賀会	式典の様子
2016年5月28日	中大技術士会第12回定時総会	総会の様子
2015年10月25日 11月1日～3日	第23回ホームカミングデー-理工白門祭出展の様子	出展の様子
2015年5月30日	中大技術士会第11回定時総会	総会の様子
2015年3月19日	平成26年度第3回中大技術士会講演会	講演会の様子
2014年11月17日	第4回中大法曹会との交歓会	交歓会の様子
2014年10月26日 11月1日～3日	第22回ホームカミングデー-理工白門祭出展の様子	出展の様子
2014年5月31日	中大技術士会第10回定時総会-創立10周年記念式典	総会・式典の様子
2013年6月1日	中大技術士会第9回定時総会-新入合格者歓迎会	総会の様子
2013年1月26日	平成24年度技術士第一次試験合格者歓迎会 パネル展示	出展の様子
2012年11月2日～4日	第46回理工白門祭出展報告	出展の様子
2012年10月28日	第21回 ホームカミングデー-出展の様子	出展の様子
2012年10月19日	中大技術士会主催講演会の様子	出展の様子

図2 活動履歴の画面

最後に③のニュースレターをクリックすると2005年8月25日に発行したニュースレターVol.1

から最新号まで見ることができる。ニュースレターの発行間隔、内容を見て頂き、我々幹事がニュースレターの発行を継続するための苦勞の一端を知って頂けると幸いです。

この他、表面的には大きな変化として見えていないが、2015年頃より行事への参加申し込みの受付をホームページで行っている。この受付画面も完全に手作りである。少し、細かくなるが、PHP という言語と MySQL というデータベースを使ってサーバー側にプログラムを作成し、参加申し込みを登録すると、自動的に受付完了のメールが送られるようにしている。使用されたことに無い方は、是非、一度、試してみてください。

(2) メーリングリストの管理

表 1 に示したメーリングリストの管理が主な作業である。この中で「info@chuo-u-pej.org」の管理が一番の悩みである。このメーリングリストは、ニュースレターの送付など幹事会から会員に情報を送るために作成したものであり、一般会員はこのアドレスを使ってメールを送ることはできないように設定している。そのため、会員の皆様がプロバイダーの変更や退職、転職等でメールアドレスが変更になった場合、幹事会に変わったことを教えて頂けないと、幹事会からの連絡が届かなくなる。運用を開始してから 20 年経過した現在、ニュースレターを発行する度に送信エラーのかなりの量のメールがサーバーから管理者の私宛に送られて来る。そのため、登録内容を見直したいと思っているが、手が回っていないのが現状である。

新規入会、変更届けを toiwase@chuo-u-pej に提出して頂ければ、随時、更新していますので、届け出しているメールアドレスが変更になった場合、速やかに連絡して頂けると助かります。

(3) ニュースレターの発行

中大技術士会が発足して間もない頃、笹尾幹事の提案でニュースレターの発行を開始した。そのため、当初は、笹尾幹事が一人で原稿を集め、編集し、発行していた。そのため、最初は年に 1 回～2 回のペースで発行していた。その後、広報部会の発足に伴い、編集委員を募り、会員同士を繋ぐ場として、年 4 回発行を目標に体制を組んで開始し、運営方法を見直しながら、現在の形態に至っている。

① 立ち上げ期

広報部会員は私と伊藤幹事が選任でスタートしたこともあり、年 4 回発行を目標にした場合、編集委員を募る必要があった。そこで、ニュースレターの編集経験のある伊藤幹事をリーダーに編集委員として小柳幹事、武安幹事、篠崎幹事に加わって頂き活動を開始した。

- 内容：これまでの内容を継承し、巻頭言、活動報告、活動計画、エッセイを軸に編纂することにした。また、巻頭言は幹事全員が執筆する方針とし、会長、副会長、幹事長が一巡した後は、各幹事に執筆した。

• 発行時期と編集担当

編集作業の負荷を軽減するために、基本的に年 1 回編集作業を行うこととし、以下に示す体制で行った。

- 7 月初旬発行：編集担当 小柳幹事
- 10 月初旬発行：編集担当 武安幹事
- 1 月初旬発行：編集担当 篠崎幹事
- 4 月初旬発行：編集担当 伊藤幹事

② 変革期

ニュースレターの作業はメールベースでも行えることから、活動への参加に意欲的な会員にお願いすることで、体制の見直しを行った。また、巻頭言の執筆は会長、副会長、幹事長に止め、合格者体験談、リレーエッセイの採用など内容を充実させ、現在の構成になった。

- 内容：巻頭言、活動計画、活動報告、リレーエッセイ、合格体験談、会員からのエッセイ

・発行時期と編集担当の変遷

編集作業はメールベースでも可能なことから、会員との交流を図る目的で新潟や関西など都心から離れた会員にも協力をお願いして行った。

表 2 編集担当の変遷

発行時期	立ち上げ期	編集担当の変遷			
		Vol.20～Vol.23	Vol.24～Vol.39	Vol.40～Vol.50	Vol.50～Vol.57
取りまとめ	笹尾幹事	伊藤幹事	伊藤幹事	伊藤幹事	伊藤幹事
7月初旬	笹尾幹事	小柳幹事	小柳幹事	小柳幹事	小柳幹事
10月初旬	坂林幹事	武安幹事	渡辺幹事	山下幹事	伊藤幹事
1月初旬	小柳幹事	篠崎幹事	篠崎幹事	篠崎幹事	山下幹事
4月初旬	中尾幹事	伊藤幹事	今野幹事	渡邊幹事	篠崎幹事
	篠崎幹事				

③現在の体制

コロナ禍や先生方の異動等によりエッセイや合格体験談などの原稿を集め難くなったことに加え、編集をお願いしている方の業務の状況にも変化があり、ニュースレター発行の継続を最優先に考え、Vol58以降は、年3回発行に見直し、以下の体制で行っている。

- ・内容：巻頭言、活動計画、活動報告、リレーエッセイ、合格体験談、会員からのエッセイ
- ・編集担当：伊藤幹事（取りまとめ）、小柳幹事、山下幹事、篠崎幹事

3.4.4 課題

ホームページ、メーリングリストの運用、ニュースレターの発行と一見、活動は効率的に行えているように見えるが、運用の継続性を考えると様々な課題がある。今後の抱負を含め、課題について述べ、広報部会の紹介を終えることにする。

(1) ホームページの運用

①CMSの導入

完全に手作りのため、更新できる人材に限られている。幹事の高齢化が進んでいる現状を考えると、WordPressなどのオープンソースのCMSに移行する必要がある。そのためにも、現在の運用と並行してCMSへの移行を検討して頂ける方の協力をお願いしたい。

②セキュリティ対策

多くの会員の方は気づいていると思うが、現状、httpsに対応していない。使用しているプロバイダーのサービスとしては対応しているため変更手続きを取るだけであるが、組み込んでいるプログラムとの関係を確認する必要があり対応できていない。

CMSへの移行に合わせて行うか、先行して行うか、対応時期を思案中である。

(2) メーリングリストの運用

不達のメールアドレスを洗い出すために、名簿との照合が必要と考えている。この作業もそれなりの時間を要するため、対応時期を思案中である。

会員の皆様には、退職、転職、異動、プロバイダー変更等でメールアドレスが変更になった場合、中大技術士会との繋がりを保つためにも、速やかに変更届けの提出をお願いします。

(3) ニュースレターの発行

幹事会の活動計画、活動内容のみではニュースレターの内容としては不十分であり、会員同士の繋がりを作るにはリレーエッセイ、エッセイ、合格体験談が不可欠である。そのため、会員の皆様には、リレーエッセイ、エッセイ、合格体験談を積極的に投稿して頂けるように、ご協力をお願いします。

3.5 大学技術士会連絡協議会活動報告

中大技術士会幹事 佐藤儀一（建設・総合技術監理部門）

大学技術士会連絡協議会の設立に当たっては中央大学、東京都市大学（旧武蔵工業大学）、早稲田大学の三大学により三大学技術士会を結成し、2006年5月に三大学技術士会合同講演会を開催した際、参加者よりもっと多くの大学技術士会の参加を望む意見があったことから、2006年10月に中央大学、東京都市大学、早稲田大学、東京工業大学、東京理科大学、千葉工業大学、日本大学の7校が発起人となり、連絡協議会設立準備を進めたことからスタートした。



2008年11月20日に日本技術士会葦手ビル会議室において日本技術士会より役員をお招きし、設立総会を実施した。参加大学は13大学で38名が参加し、会の設立趣旨説明、運営方法、各大学の活動報告を行った。また活動を活性化するため、中大、都市大、早大、東工大、理科大、千葉工大、日大、工学院大が世話人となり、協議会の運営を行うことになり、設立が承認された。中大は会計を担当することになり、2021年1月に明大と交代するまで13年担当した。2016年度の総会で世話人8校に明大、近畿大を加えた10校が幹事会として新たに総会の運営を行うことになった。幹事会は交代制とし、何校が入れ替わり、現在に至っている。

総会は毎回日本技術士会から役員の方をお招きし、日本技術士会の動向、講演会、会員大学の活動報告を実施し、会議終了後懇親会を実施し、各大学との交流を図っている。

中大については技術士一次試験合格者（在学中）が2012年～2014年の3年間、1位を継続したことから、中大方式が注目を集め、2017年度の総会において「学生受験者増大対策の事例報告」を発表した。

2018年度は日本技術士会が機械振興会館に移転し、会議室が有料となったことより、各大学の持ち回りにより大学のキャンパスで実施することになった。この会より特別講演会を実施するようになり、キャンパスを提供した大学の先生が講師を務めるようになった。

2021年は新型コロナの影響を受け、オンラインにより総会を開催した。2022年度は新型コロナの影響で中止となった。

2006年に三大学技術士会合同講演会がきっかけとなりスタートした大学技術士会連絡協議会が今年度で加盟大学が36校となり、今後さらに加盟校が増加すると思われる。

毎年の活動状況を以下の表に示す。

No.	開催年月日	開催場所	参加大学	参加者	討議内容・特別講演内容
1	2008.11.20	日本技術士会葦手ビル会議室	13大学	38名	① 会の設立趣旨説明 ② 運営方法 ③ 各大学の活動報告
2	2009.06.13 (総会、講演会 同時開催)	日本大学理工学部 駿河台校舎	16大学	43名	① 「舟運と都市の係わり方」 日本大学理工学部交通工学科 名誉教授三浦 裕二先生 ② 「日本のものづくりと技能オリンピック」 諏訪東京理科大学 客員教授 西澤 紘一先生
3	2010.11.15	日本技術士会葦手ビル会議室	18大学	28名	① メーリングリストについて ② 大学別技術士合格者数 ③ 日本技術士会への要望事項
4	2011.10.04	日本技術士会葦手ビル会議室	17大学	19名	① 技術士試験制度の見直し ② JABEE 制度の活用 ③ 大学別技術士合格者数
5	2012.11.13	日本技術士会葦手ビル会議室	18大学	38名	① メーリングリストについて ② 大学別技術士合格者数 ③ 技術士試験の改正について

6	2013.11.11	日本技術士会葦手 ビル会議室	20 大学	41 名	① 各大学の活動報告 ② キャリア+形成の支援について
7	2014.12.08	日本技術士会葦手 ビル会議室	25 大学	47 名	① メーリングリストについて ② 大学別技術士合格者数 ③ 学生向け説明会資料について
8	2015.11.09	日本技術士会葦手 ビル会議室	25 大学	42 名	① メーリングリストについて ② 修習技術者の支援について ③ 新入会員会長挨拶
9	2017.01.14	日本技術士会葦手 ビル会議室	25 大学	46 名	「日本技術士会と大学技術士会との連帯について」 日本技術士会 西村常務理事
10	2017.11.18	日本技術士会葦手 ビル会議室	24 大学	49 名	「社会インフラの老朽化の現状と課題」 東京都市大学学長 三木千壽先生
11	2018.11.10	日本大学駿河台キ ャンパス	28 大学	62 名	「人力で空を飛ぶ技術と視点」 日本大学理工学部非常勤講師安部 建一先生
12	2019.11.30	東京都市大学世田 谷キャンパス	33 大学	68 名	「PERC とはやぶさ2の最新報告」千葉工業大学 惑星探査センター(PERC) 和田浩二先生
13	2021.01.30 オンライン開催	東京理科大学神楽 坂キャンパス	34 大学	82 名	① CPDの登録について ② 全国大会について ③ 大学別合格者について
14	2023.03.17	東京電機大学東京 千住キャンパス	36 大学	48 名	「脳磁波から解る脳の仕組み」 東京電機大学名誉教授・元学長 小谷誠先生
15	2024.04.06 オンライン併用	早稲田大学西早稲 田キャンパス	36 大学	69 名	「高潮・津波がわかる～沿岸災害のメカニズムと防災」 早稲田大学名誉教授 柴山知也先生



中大技術士会 第12回定時総会の様子

3.6 テクノロジー懇談会の紹介

中大技術士会 幹事長 國島 旭（機械・総合技術監理部門）

「テクノロジー懇談会」は中央大学理工学部在籍する教員、学生（大学院生を含む）及び中大技術士会の会員（OB、OG）が気楽に交流し合える懇親の場として2013年7月に設けられました。

テクノロジー懇談会は、「中央大学の理工学部の名声を高められる様な共同研究や産学連携の活動は何かないか」が契機になります。テクノロジー懇談会を通じて大学の「研究テーマ」の事業化などに向けた一助になることを目標としています。

これまでの活動を振り返りますと、2013年（平成25年）7月から2016年（平成28年）3月までの3年間に、中央大学理工学部の電気電子情報通信工学科の橋本秀紀教授とテクノロジー懇談会を10回、開催しました。野球のピッチャーが投げる球のストライクとボールを自動判定する装置（呼称：ストレンジャー）を取り上げました。

その後、2018年（平成30年）に、中央大学理工学部の電気電子情報通信工学科の諸麥（もろむぎ）俊司准教授とテクノロジー懇談会を3回、開催しました。中大技術士会の内藤堅一前会長は学生時代に理工学部のボート部に所属していましたので負荷を掛けて漕艇動作を練習するエルゴメーターの開発が議題に挙がりました。2018年10月に諸麥先生、内藤前会長、私の三人で、実際に戸田ボート場にある中央大学ボート部の練習場を見学に伺いました。2021年6月に亡くなられた内藤前会長を偲ぶ思い出になりました。

また、2018年12月に中大技術士会の篠崎博文幹事から、「ボート競技の身体動作に関する整体面からの考察」に関する講演をテクノロジー懇談会として開催しました。

その後、2019年秋からのコロナ禍により、長期間、テクノロジー懇談会の活動が中断されて、再開に向けて準備中になります。

大学には教育大学、研究大学としての役目があり、中央大学が今後、研究テーマの製品などが実用化されて研究大学としての魅力が向上し、益々、中央大学が発展していく事を願っています。

また、将来的に少子高齢化が進行して、全国の大学は生き残り競争を賭けて、他大学との差別化を図って教育テーマ（シラバス）や研究テーマを充実させて、更に、大学内外での産学官連携の活動なども活発化させたいと考えています。テクノロジー懇談会が、中大理工学部の研究テーマのビジネス化などに向けた一助になる様に、微力ではありますが、活動を行って参ります。

今後とも変わらぬ皆様の御指導や御支援を賜ります様に宜しくお願い申し上げます。



3.7 CO2 環境対策技術研究会の紹介

中大技術士会名誉顧問・初代会長 金川 護（上下水道・総合技術管理部門）

2004年に白門技術士会（現、中大技術士会）が発足しましたが大学との連携をどの様にしたら良いか模索していました。この頃、地球温暖化の問題が騒がしくなり、京都議定書やパリ協定で温暖化の主要因と見なされる炭酸ガスの排出を規制することが決まってきました。以前から親しくして頂いた応用化学科の大石教授が新しい炭酸ガス吸収剤を開発した。との報告を聞きました。ケイ酸リチウムセラミックスが自重の37%もの炭酸ガスを吸収するとのことです。早速大石研究室を訪問し、地球温暖化を含む環境問題に役立てることを考える研究会を立ち上げる相談をしました。



大石先生の了解を得て2008年に「CO2 環境対策技術研究会」を立ち上げ、会長には東京家政大学教授の村上和雄先生、副会長は大石先生、金川、幹事長に内藤さんで会員は卒業生や一般企業からも募集して発足しました。私の同級生も10人近く入会しました。また、当時既に退職されていた中田先生にお話ししたところ、先生のお力で数名の卒業生が入会してくださいました。

これが大学との連携の第1号です。

研究会は年3~4回炭酸ガスを多く発生している工場や公共施設を見学し、そこでの炭酸ガス対策や省エネ対策のお話を聞くなどする勉強会でした。また、毎年1回大石先生と村上先生に炭酸ガス吸収剤の研究状況や環境のお話をして頂きました。

第一回研究会は2008年9月に東京電力横浜火力発電所の見学、第2回は2008年12月東京都宮城水再生センター（下水処理場）でした。最後の研究会は2020年1月の川崎にある東芝未来館の見学でした。その年の6月に会を積極的に運営して下さった内藤幹事長がお亡くなりになり、また、コロナが急速に蔓延し、それ以来研究会は中止しています。

2010年7月には東京電力柏崎刈羽原子力発電所を見学し、その大きさ、また、水さえあれば原子炉は暴走せず絶対に安全あるとの説明を受け安心したところでした。ところが、2011年3月11日に東日本大震災で東京電力福島第2発電所で原子炉の重大事故が起きました。重大事故の一番の原因は津波によって地下にあった非常用発電機が水没し原子炉に水を送るポンプに送電できず、原子炉内のウラン燃料棒が高温で融解し、水素爆発を誘発し、回復に何十年かかるかもしれない事故となってしまいました。本当に非常用発電機を津波の届かない高い場所に設置しておけば重大事故は起こらなかったと思っています。その後、どこの原子力発電所も見学を受け入れない事から、事故の悲惨さ、災害を受けた方々への無念さを思いながらも、ギリギリで原子力発電所を見学できたことは幸運でした。

大石先生の炭酸ガス吸収剤の研究は吸収剤をコイル状や板状にして電気で自己発熱させて、炭酸ガスを吸収、脱着する技術を発展させることで、産業界への利用が期待されています。当初、大石先生の研究にも役立てたいと考えて立ち上げた研究会でしたが、先生も見学研究会でいろいろな刺激を受けて、先生の研究も進んだ事と大学と卒業生を結ぶ集まりとしても有益な研究会となり、35回続きました。その内容は中大技術士会ホームページの活動内容の欄に「CO2 環境対策技術研究会」がありますので、そこをクリックすれば見られます。

以 上

3.8 グリーンインフラ勉強会の紹介

グリーンインフラ勉強会世話役 山下 三雄（建設・総合技術監理部門）

会員の皆様もマスコミを通してすでにご存じかと思いますが、中央大学研究開発機構の石川幹子教授が、明治神宮外苑の貴重な樹木を再開発事業のために大量に伐採する事態に対して、精力的に抗議運動を展開しております。石川先生は所属する日本イコモス国内委員長と連名で、再開発の事業者及び東京都知事等に対して数回にわたり科学的な根拠に基づく提言を提出しております。その中には事業者側の約 900 本もの樹木の伐採に対して、現提案による神宮球場及び秩父宮ラグビー場を位置の交換ではなく、それぞれ現位置において再築する方法で、たった 2 本だけの樹木の伐採ですむ内容のものも含まれております。またイコモス本部から文化遺産の不可逆的な破壊から守るべく「ヘリテージ・アラート」が発信されております。



中大技術士会としても何らかのお力になれないかと考え、先生のご指導のもと標記の勉強会を発足することにいたしました。会員を募ったところ坂林会長をオブザーバーとして 7 名の方の賛同を得て以下の通り勉強会を実施しました。

第 1 回（令和 4 年 6 月 12 日、キックオフミーティング）

石川先生のご案内で神宮外苑の樹木を見学（下記写真を参照）

神宮外苑の象徴ともいえる銀杏並木の何本かの先端部分が枯れつつあること、及び新国立競技場の建設のために移植した樹木がほとんど成長していないことを確認しました。

（事業者から東京都に提出された環境影響調査書には銀杏並木の全数が健全であるとの誤った記載がなされています）



第 2 回勉強会（令和 5 年 2 月 3 日）、第 3 回勉強会（令和 5 年 4 月 10 日）

理工学部研究室にて石川先生より、その後の神宮外苑の動きについてお話を伺いました。過日亡くなられた坂本龍一氏をはじめとする各界の方々からの樹木の大量伐採につきまして疑問の声が大きくなっており、現在のところ進捗がどうにかスローダウンしておりますが予断は許されません。



写真左側の銀杏並木から8mしか離れていないところに、新しい神宮球場のスタンドの壁が計画され、基礎工事のために隣接して実に40mも掘削されることになっています。過去の新宿御苑沿い道路の地下化の事例からいっても水の供給不足によってこれに沿う銀杏は枯れてしまうことが懸念されています。

写真：神宮外苑の銀杏並木

神宮外苑を設計した一人に当時の東京大学の教授であった本多静六林学博士がいます。博士は日比谷通りの拡幅にあたり、隣接する日比谷公園のあった銀杏が伐採されるのを危惧し、命をかけて非常に困難であった銀杏を園内に移植し、今でもレストラン松本楼に隣接して園内最大のものが「首掛け銀杏」の名で見事に残されています。

神宮外苑の整備は当時の渋沢栄一翁や三井の総帥の三井八郎右衛門翁の先導のもと、全国及び海外からの献金と献木さらに国民の勤労奉仕によってなされたものです。その後この美観を永久に保存することの要請のもと明治神宮に奉納されました。この先達の遺志を無駄にしてはなりません。事業者の一つである三井グループの会社はどのように考えているのでしょうか？ 2年前の東京オリンピックもその精神を逸脱した一部の金儲けの商業主義によって負の遺産を残してしまいましたが、同じ轍は二度と踏まないように願うばかりです。

我が国は「神の国」であるとの失言で総理大臣を辞めた方が、神の存在ともいえる明治天皇のご威光を棄損してもよろしいのでしょうか？ 現在政権与党の一部は裏金と脱税疑惑で民主主義の根幹が揺らいでいますが、このスタートとなったのもこの元総理大臣の時期でありました。私見ですがリーダーは長く勤めると聞く耳を次第に持たなくなり、周りはYES マンの忖度ばかりになりかねません。潔く次代のものにバトンタッチし、せいぜい相談役に徹し、決して「老害」と揶揄されることのないようにしなければなりません。

また東京都も銀杏並木の全数が健全であるとの事業者の一方的な科学的根拠の乏しい環境影響評価等をもとに判断すべきではないと考えます。

3.9 「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システム成立性」プロジェクト研究

中央大学技術士会 参与 中尾愛人（上下水道・総合技術監理部門）

都市環境学科國生剛治教授は、2012年度中央大学理工学研究所のプロジェクト研究として、「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」の研究を開始されました。客員研究員として中大技術士会から10名の会員も参加しました。



こうしたことから、活動について、中大技術士会20周年記念号で報告して欲しい旨、要請がありました。

國生先生に原稿執筆を依頼することを考えましたが、2015年度以降の活動が行われておりませんので、小職から報告させていただきます。

プロジェクトの研究会は、2012年度7回、2013年度6回、2014年度3回開催され、ソーラーセル、蓄電池、低緯度太平洋もの気象海象条件、筏船団、鋼製筏、水素製造、水素によるエネルギー輸送、有機ケミカルハイドライド法による輸送、海洋環境などの関連課題、経済的経済性等を検討した。研究会には、中大技術士会員以外にも、電力会社、建設会社などもオブザーバーとして参加しました。（参照：2014年5月の中大技術士会創立10周年記念号に國生剛治教授が「低緯度太平洋メガソーラー帆走筏発電構想」）

工業所有権に関する事項は、中大技術士会創立10周年記念号に掲載されていませんので、簡単に記述します。

この構想全体に関わる基本技術について工業所有権が中央大学より出願されました。

- 海洋移動型太陽光大規模発電システム：特願 2011-537212
- 特許出願 CU1301（保守点検システム）（2013年12月出願）
- 特許出願 CU1302（再生可能エネルギー搬送再生方法）（2013年12月出願）

その後のプロジェクトは、2014年度に國生教授が中央大学を定年退職され、中央大学名誉教授となられたため、中央大学理工学研究所のプロジェクト研究は終了し、中大理工キャンパス内での活動がなくなり、國生先生個人のライフワークとして様々なフィールドに論文を投稿されています。

中大技術士会としての本プロジェクトの活動は、2015年度以降実施されておらず、今後活動が再開される見込みもありません。簡単ですが、報告は以上とさせていただきます。

第4章 寄稿

4.1 内藤堅一会長を偲んで

中大技術士会副会長 武安 真児（情報工学・総合技術監理部門）

中大技術士会前会長の内藤堅一さんが、会長職に在職中の2021年6月23日にご逝去されました。内藤さんは中大技術士会の会長として熱心に活動されていて、会に多大な貢献をされている中で亡くなられたことは非常に残念でなりません。

内藤さんの今までの中大技術士会でのご活動を見てみますと、2004年の中大技術士会の発足時には、会の運営に直接関係しておられなかったようですが、2008年より幹事として活動に参加されるようになり、2012年からは副会長兼企画部会長を務められ、2014年の定時総会終了後より金川前会長から会長職を引き継がれて、会長に就任されました。

企画部会長でおられたときには、中大技術士会講演会やテクノロジー懇談会の企画や開催、理工白門祭やホームカミングデーへの参画、また法曹会との交歓会等の開催に尽力されました。

中大技術士会の会長に就任されてから特筆すべきことは、技術士第一次試験合格者の在学生の大学別の順位で中央大学が2014年と2016年の3年連続で全国第1位になりましたが、内藤会長が学生向けのガイダンスや模擬試験において、学生に対して技術士資格の重要性を熱心に説いていたことが大きかったと思います。

企画部会の業務は私が引き継ぐことになりましたが、会長になられた後でも、ホームカミングデーや理工白門祭へも積極的に参加されて会を盛り上げることに注力され、企画部会の運営にもご協力いただきました。

理工白門祭での展示は、私が企画部会長になってからは、展示内容をタイガー計算機（手回し計算機）のような古い計算機の展示に変更しましたが、内藤会長は昔これらの計算機を実際に使われていたということで、タイガー計算機を慣れた手つきですばやく操作され、また来場者へも使い方を熱心に説明されていたことがとても印象に残っています。

また、中大技術士会の分科研究会の一つであるCO2環境対策技術研究会では、幹事長として研究会の多くの活動を支え、さらに「低緯度太平洋ソーラーセル搬送筏発電システムの成立性研究」での大学の先生方との共同研究や、「ミミズロボット」での研究室と企業との仲介をするなど、大学との良い関係を築くことにも貢献されました。

新型コロナウイルス禍以降、幹事会もオンライン会議になっていたため、直接内藤さんにお会いできたのは2020年1月の幹事会が最後で、その後、直接お会いすることができないままのお別れになってしまいました。内藤さんから幹事宛に最後にメールを送られたのは6月8日でしたが、それからわずか2週間あまりで訃報を受け取ることになり、あまりにも突然のお別れになり残念でなりません。

内藤堅一さんのご冥福をお祈り致します。

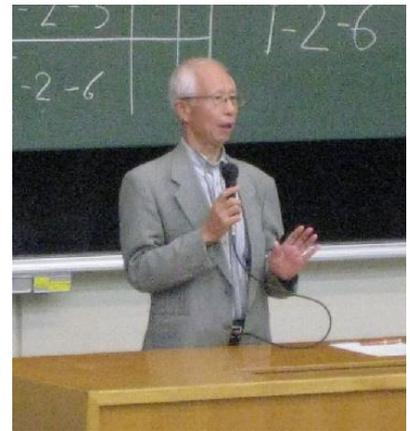


写真1 技術士第1次試験模擬試験で学生に説明する内藤会長（2017年）



写真2 理工白門祭で来場者にタイガー計算機の説明をする内藤会長（2019年）

4.2 故林知幸幹事長を偲ぶ

中大技術会顧問 藤森公彦（応用理学・総合監理部門）

2023年3月7日に満76歳で林知幸幹事長がご逝去されました。

私は、海外在住の折でしたので、幹事の中尾愛人さんより、メールにて連絡あり知りました。突然の事で、なんで林さんが亡くなられたのか分からず、とりあえず私が林さんの息子さんを知っていたので、すぐメールで連絡を取り内容を聞き直ぐに中尾さんに連絡しました。葬儀は、3月12日（日）千代田豊島園会館で家族葬にて営まれました。その折、家族の配慮により特別に中大技術士会の参列が出来ることになり、中尾さん、坂林会長など数名が参列されたと聞いております。

林さんは、私にとってよき友であり、親友でした。また、中大技術士会の幹事長として、会を現在の地位まで引き上げた功労者であり、その働きは大変大きいものでした。

林さんが幹事長に就任したのは、2003年の設立発起人の一人でした鈴木薫氏が1期の幹事長の後任として、2005年2期の幹事長に就任してから2022年までの17年の長きにわたり幹事長を勤めて来られました。

設立当初は「白門技術士会」は、中央大学学員支部の成立要件に満たないため「学員会支部」になれませんでした。林幹事長の努力により2007年5月「学員会支部“白門技術士”」として仲間入りを果たしました。その後、会員も増加し活動も活発になり2011年5月正式に「中央大学学員会 中大技術士会支部」として正式に昇格しました。この事は、林幹事長の努力と情熱によるものであります。その他特質すべきことは、この会は技術士及び技術士補の資格保有者が会員ですが、会費が無いことが特徴です。会費がなくても支部から支援金等で何とかやり繰りしているのが幹事長の腕の見せ所で、良くやってくれました。また、理工学部の部長・各教授や教務事務室等を訪問し、中



「在りし日の林知幸幹事長」

大技術士会を知って頂くと共に学生の技術士試験の受験の進めとそのためガイダンスをお願いしていました。幹事会は、数カ月に1回開かれ、会の終了後には林幹事長の呼びかけにより幹事の有志が毎回理工学部の近くの春日駅付近の「フーガ」と言う飲食店で、割り勘で酒を飲み交わして談笑するのが慣わしになっていました。いつも、中大技術士会はどうあるべきかなどや個人の出来事や悩みの愚痴を聞いたりする心の発散の場になって、非常に楽しい場となりました。この事は、幹事の人々の気心を知り仲間意識を強め、団結力を高める結果となりました。

林さんの晩年の2年ほどは、奥さんの体の調子が悪く看病することが多くなり、気苦労が重なり本人も体の調子が良くなかった様で、会の運営もままならず、会の中でも摩擦が起きる状態になっていたと思われます。私も、心配で何度も海外からメールをしましたが返事が返って来ませんでした。このような時に、林知幸さんの死去の報に接し、大変驚いた次第です。

最後に、林幹事長が会の了解のもとに、会の旗、会の名入り封筒・クリヤーファイル・腕章・名札、会のパンフレットなどを考えつき作成しました。これらの物を保管する場所がなく自宅に保管していたものを息子さんがどうすれば良いか私に訪ねてきたので、「坂林会長あてに送って下さい」とお願いし、後日坂林会長あてに届きました。この様に、林幹事長は、細かいところに気を配り自分で手配し作成する努力家で、本当に敬服致します。

林知幸幹事長のお陰で、中大技術士会もやつと一人前になるところまでできました。長きにわたる努力の賜物と感謝申し上げますと共にご冥福をお祈り申し上げます。

4.3 伊藤俊郎幹事を偲ぶ

中大技術士会副会長 小林 進（情報工学・総合技術監理部門）

2024年4月1日の夜、小柳幹事からの1通のメールが目にとまった。「伊藤さんが亡くなったらいい・・・」。その時、「何かの間違いだろう」と思った。しかし、坂林会長、國島幹事長が伊藤さんの勤務先等を調べて確認しところ、3月25日に亡くなられていたことが分かった。

伊藤さんは法学部出身で、環境関係の仕事に携わるなかで、専門知識を習得して「環境部門」の技術士資格を取得した努力家である。2012年7月に発行したニュースレターの中で、「文系出身者の飽くなき挑戦！」と題して「顧客の担当者として、顧客に安心して頂くために技術士資格を目指した」と技術士を目指した動機を書かれている。その時、いくつかの公的資格を取得していたが、顧客に安心して頂くには十分ではないと思い、技術士に挑戦したようである。



定時総会で活動報告する伊藤さん

このニュースレターが縁で、中大技術士会の幹事として会の運営に参加し、中大技術士会創立10周年記念誌を作成する頃から広報部会員としてニュースレターの主査を務めて頂いた。この記念誌の作成では、常に、穏やかに周囲に声をかけて、期日通りに編集作業を進めていたことを今でも鮮明に覚えている。そのため、安心して任せられることから、行く末は広報部会の運営を全て任せたいとも考えていた。

ニュースレターが現在の形になるまで、いろいろな事があった。まず、定期的に発行を継続するには、集者の負荷を軽くする必要があると考えて、協力者を募って、伊藤さんをリーダーに4人体制でスタートした。このとき、伊藤さんは新しく加わった方に丁寧に対応したことから、編集作業がスムーズに立ち上がり、今日に繋がっている。次に、協力者が多い程、担当者の負荷を軽減できる考え、新潟、関西方面の会員に協力をお願いしたこともある。その他、ニュースレターを会員同士の繋がりを作るツールに位置付け、「リレーエッセイ」の立ち上げを相談したところ、「いいですね」と2つ返事でスタートした。当初、幹事間でバトンを渡していたが、自然と幹事以外の会員にもバトンが渡るようになった。このように、順調にニュースレターの発行が続く中、2018年3月に伊藤さんが倒れたとの連絡が内藤会長よりあった。直前まで、メールでニュースレターについて相談していたこともあり信じられなかった。その後、仕事の帰りに入院している病院にお見舞いに行き、暫く、話をしたが、「迷惑をかけてすみません」と何回も言っていた。また、リハビリを行って幹事会の活動に復帰したいとも言っていた。

それから、一年程して、幹事会の活動に復帰し、「技術者倫理」の非常勤講師をはじめ、自分の専門を活かした「グリーン・インフラ」のプロジェクトなど中大技術士会の活動に積極的に参加するなど、私が担当する広報部に欠かせない存在になっていた。また、中大技術士会創立10周年記念誌を発行してから10年目を迎える時期でもあった。



「技術者倫理」の講義をする伊藤さん

そこで、伊藤さんに「そろそろ、創立 20 周年記念誌の話が幹事会で出ると思うけど、どうする？」と相談を持ちかけた。伊藤さんは、倒れたときの後遺症を気にされていたが、「今回は、伊藤さんを中心に二人で作ろう」と相談していた。伊藤さんは、自分なりの構想を考えていたと思うが、間もなくして、秋に手術することになったとの連絡があった。経過観察の中で、手術が必要な病気が見つかったようである。周囲には心配をかけないように、気丈に振る舞っていたが、内心、不安だったと思う。そして、手術が無事に終わり、退院して暫くした年末に、Zoom を介して久しぶりに伊藤さんの元気な顔を見た。このとき、坂林会長も同席され、手術の状況、今後のことなど、いろいろ話をした。この時、手術は成功し、快復が見込まれていると判り一安心していたところに、冒頭に書いた小柳幹事からの 1 通のメールを目にした。

伊藤さんと広報部会との係わりを中心に述べてきたが、中大技術士会の唯一の機関誌であり、会員を繋げるニュースレターが、現在の形まで成長するには伊藤さんの力無しでは実現しなかったと思う。この功績は非常に大きく、常に、会員に寄り添って行動していた伊藤さんに感謝したい。

また、広報部会長である自分の気持ちとしては、この中大技術士会創立 20 周年記念誌を伊藤さんと一緒に作りたかった。これまでやり取りしたメールからも、伊藤さんは担当したかったものと思う。これが、唯一の心残りである。

伊藤さんのこれまでの活躍に感謝するとともに、ご冥福をお祈りします。



グリーン・インフラの調査に参加する伊藤さん（左から 3 人目）

4.4 「科学技術と倫理」の講義を通して学生に訴えてきたこと

中大技術士会幹事 山下 三雄（建設・総合技術監理部門）

1. 「科学技術と倫理」の講義について

私は平成30年から6年間中大技術士会の推薦によって最初の3年間は中大職員の兼任講師として、定年退任後の3年間はゲストスピーカーとして理工学部において「私の職務経験を通して技術者倫理について考える」と題してレクチャーをさせていただきました。内容はケーススタディを以下の通り4例ほど取り上げそれぞれ受講生にあらかじめ渡した色紙を掲げて自分の意見（セーフ：緑、アウト：赤、どちらともいえない又はわからない？：黄）を表明する「学生参加型」としました。本当のところはさらにその1例についてセーフとアウトを表明した2人の学生の代表者間でディベートするアメリカ型の授業をしたかったのですが、ちょっと無理があるかなあとということで実現できなかったのが残念であります。



4例のうち1例は私が考えてもアウトなもの、さらに2例は微妙なものを敢えて取り上げ学生の判断を求めました。以下の4例のカッコ[]内は私の判断です。

第1例：ブラジルのリゾートプロジェクトのフィジビリティ・スタディにおいて、社長の発注者よりの資本提供を図るといふ真の目的を忖度して、実際には明らかにNOではあったがYESともNOともいえない玉虫色の結論としたこと。[?]

第2例：大規模都市開発事業（開発面積；約120ha、総事業費；約500億円）のプロジェクトマネジメント業務において、地権者折衝におけるインサイダー情報を得て、会社に確認したとはいえ私個人で土地を買収し、現在そこでアパート経営による不動産収入を得ていること。土地の価格も買収時の約2倍になっている。[?]

第3例：上記のプロジェクトマネジメント業務の従事中に結婚したが、この事業の情報をもたらし現地のブローカーが新居は任せさせていただきたいとお話があり任せていたところ、新婚夫婦にはいささか贅沢な物件を紹介された。私名義で地方銀行から購入資金約3,000万円の借金をしたのであるが、月々の返済額20万円のうち12万円を先方が負担した。一応私の妻が先方の経営する会社に勤務していることにしたが、実際には1日も勤務していない。トータルで12万円×18か月（会社を依願退職するまで）＝216万円の資金提供を受けた。なお、私に発注権限はなかったがブローカーの経営している会社に約3億円余りの相当するあまり実質を伴わない仕事を発注している。法的には民法における「不当利得」に相当し返還しなければならないが、すでに10年の消滅時効が成立している。[アウト]（言い訳）本事業は純粋な民間事業であり、補助金等税金は1円たりとも導入していない。

第4例：建設コンサルタント会社の常務取締役支店長の時に会長よりある社員の指名解雇を指示されたが、本人はなるほど文句の多い人ではあったが、仕事は真面目にこなしていたので、当時の解雇4要件の一つ「解雇対象人选の合理性」には該当せず、民法における「権利濫用として無効」になることを会長に説得したのであるが聞き入れられず、私がコンプライアンスの守れない会社には将来がないと考え自ら円満退社した。[セーフ]

時の政権の批判を含めて文科省には全く忖度することなく？好き勝手なことを言ってまいりましたが、言論・学問の自由が失われれば大学のレゾンデートルはありませんし自殺行為であります。前々政権が倫理的におかしいことのオンパレードであったので（私見）演習問題の材料には事欠きませんでした。一昨年までの章のタイトルに「アベ劇場第2幕終演のドタバタに学ぶ技術者倫理」とありましたが、まさか我が国で元総理大臣がテロによって殺害されるという終幕がおこるとは全く考えていませんでした。さすがに仏さまに対して不穏当な表現になるので今年は「過去の政権に学ぶ技術者倫理」に変更し以下の通り述べました。今さら言うまでもないが、

- ① (公的な立場においては) 嘘・根拠の不確かなことを言わない。
- ② ルールを守り文書・データの改竄(技術者としては自殺行為)はしない。
- ③ 重要事項は都合よく無くなる「記憶」に頼らず、「記録」に残す。
- ④ 記録もルールを決めて、勝手に廃棄しない。
- ⑤ いわゆる上司に対する「忖度」は一切ご無用 (サラリーマンとしてはある程度は必要悪かと宗旨替えしつつあるが)
- ⑥ 「パワハラ」「セクハラ」はご法度。パワハラは部下についてこさせる魅力及び能力(人間力)の無い証拠、セクハラは病気?

2. 若い学生諸君に期待すること

我々ロートル(中国語でおじいさんの意味「老頭児[laotour]」が語源)からのエール。

- ① 今後は政治的な思惑ではなく「科学的根拠」に基づく行動のできる技術者が我が国の牽引役になる時代が到来しなければならない。
- ② 大学時代はあくまでも技術者能力を磨くのが本分であるが、「技術屋ばか」になるのではなく、法律・経済・経営・会計・金融等の文科系の基礎知識の広く浅い習得も目指していただきたい。
- ③ 技術という「専門知=部分知」に埋没せず、前述の文科系の知識も含めた「全体知」から物事を俯瞰することが大事である。→真の「ジェネラル・マネージャー」への成長
- ④ 皆様の活躍の舞台は当然世界である。英語・中国語等の語学力が必須の条件になる。→真の「グローバル・マネージャー」への成長

(まとめ) 私の言いたいことはたった2つです。

- ① どう考えてもおかしいと思ったら、大きな声を上げてほしい。(たとえそれで自身の評価が低くなくても、昇進が遅れても。Whistle blower、日本語に訳すと「内部告発者」)
- ② そのうえでおかしいことには、上司の指示であっても決して手に染めないでほしい。ただしお勧めはしません。皆様にはとっては皆様の人生であるから。

(参考1) 私のレクチャーにおける演習問題の一部

選択問題4 ケーススタディのうち1つを選んで、あなたの判断はセーフ/?/アウトのいずれでしたか? その理由及びあなたの意見を述べてください。

選択問題5 あなたは上司からデータを改ざんすることを指示されたと仮定します。あなたはどのような対応を採りますか?(2段階に分けて考えてもかまいません)

選択問題6 現在我が国の政治は危機的な状況となっておりますが(私見)、

- ① 森友・加計学園、「桜を見る会」の問題
- ② (政治問題ではないが)大学の医学部入試試験における女性差別問題
- ③ 法務省トップ官僚のコロナ蔓延下の自粛モードにも拘わらず「4密」?による賭博の問題のいずれかについて倫理観の視点であなたの意見を述べてください。

(参考2) 私が建設コンサルタントの常務取締役東京支店長に就任したときに支店勤務の社員全員に伝えたこと。(私のリーダーシップ論)

- ① 私に対する反対意見は大歓迎である。賛成意見を聞いてもあまり意味がない。「過ちては改むるに憚る事なかれ」(論語)
- ② 悪い情報は早く私にあげてほしい。早ければ早いほど選択できる解決策が多い。皆さんもその方が気が楽になるはず。
- ③ 最後に責任を取るにはもちろん私である。(トップが責任を取らなければ組織としては成り立たない)

4.5 海外移住便り

中大技術士会顧問 藤森公彦(応用理学・総合技術監理部門)

2013年(平成25年)7月にフィリピン国ミンダナオ島に海外移住してから、もう11年が経ちました。以前にもニュースレターで移住先の紹介をしましたが、今回は生活、家族等を中心に紹介致します。



フィリピンの通貨は「ペソ」で「PHP」と表記され、レートは、1PHP ≒ 2.65円(2024年2月8日 現在)です。フィリピンで働いて稼ぐ平均給与は、日本人の1/10程度です。月給は、新卒約2万円、中途採用約4万円、マネージャークラス約8万円、アルバイト約100/時給です。この給料で家族が多いフィリピン家庭の1ヶ月の生活は、物価が安くないと生活するのが、厳しいです。

物価は、基本的に日本のおおよそ半額ぐらいで、特にフィリピンでは水道水を飲むことができないため、飲料水は全てミネラルウォーターになり、毎日大量の水が消費されるため、単価が安くなっています。

- ミネラルウォーター(1,500ml) : 30PHP(約78円)
- コーラ(235ml) : 9PHP(約23円)
- カップラーメン : 25PHP(約65円)
- マンゴー(1kg) : 70PHP(約182円)

日用品は、豊富にあり地方都市でも日本の「ダイソー」などが出店しており、日本製品も購入できます。

- シャンプー : 100PHP(約260円)
- サンドル : 100PHP(約260円)
- トイレットペーパー(9ロール) : 200PHP(約520円)
- 石けん : 40PHP(約104円)



「ダイソー (DAISOJAPN)」

地元のローカル食堂は、フィリピン国内に展開している名店「ジャリビー」の他に多くの店があります。

- ファーストフード : 80PHP~(約208円)
- 人気のレストラン : 300PHP~(約780円)
- モール内のフードコート : 100PHP~(約260円)
- 人気のレストラン : 300PHP~(約780円)
- カフェ(コーヒー1杯) : 100PHP~(約260円)
- バー(ビール1杯) : 50PHP(約130円)

現在は、10年前より1.5倍程物価が上昇しており、生活経済が成長著しいことが伺えます。

その他、日本食店が地方の地域に出店しており、今住んでいるイリガン市ではラーメン店、寿司店、いきなりステーキ店などがあり、繁盛しています。しかし、調理師が日本人ではなく地元の人や中国人などが調理人のようで、日本人の私からすると味や盛り付けなどが違い、少し口に合わないところがあります。

フィリピンの言葉は、公用語として「フィリピン語」と「英語」が使用されています。フィリピン語には、フィリピン国内に7,200以上の島々からなる地域において、それぞれの地域の現地語が生まれ、8大言語を含む100近い言語集団があると言われています。この様な多言語を全国共通語の言語にするため、マニラを中心とした首都で使用していた「タカログ語」を基本とするフィリピン語が採用されたと聞きました。

しかし、ミンダナオ島のイリガン市では、現地語として「ビザヤ語」が使われています。英語は学校

で必須科目として教育しているため、ほとんどの人は読み書きができます。私は、お金や語学が苦手ではなかなか覚えることが出来なくて困っており、家族に助けられています。

フィリピンの人々は、非常に朗らかで明るい性格の人が多く、人懐っこいところがあるお国柄です。言葉のわからない私のような日本人でも、親戚や近所の人々は暖かく迎えてくれます。

こちらの国では、会社等で働く所が少なく給料が少ないため、海外で船員、看護師、家政婦、会社等で働く「**海外出稼ぎ労働者(OFW)**」が多く、実際に、国民の約10%が海外に働きに出ているとの事です。従って、家の主人等が何カ月も家を留守にすること多く、国に残った家族は生活を維持するため、困りごとなど何かあれば親戚一同が皆で一緒になって守る習慣ができあがっています。日本の昔も親戚一同がそれぞれの家族を守る習慣がありましたが、現代では核家族化が進み、余り親戚付き合いは無くなりつつあります。こちらの国では、誕生日、子供の入学・卒業、地域のお祭、クリスマス等に親戚一同の約30人以上の人が集まり1カ月に1回程度会食パーティーをする習慣が出来ています。会食は、家族の手作りが多いですが、必ず「リチュン」と言う「豚の丸焼き」の食べ物がふるまわれ、とても美味しいです。

最近では、インターネットの発達によりパソコンがあり英語力があるフィリピン人は、自分一人で海外と仕事ができるリモートワークの時代になり、時間当たり単価も良いようで多くの人がビジネスとして自宅で仕事をしています。海外に出稼ぎに行かなくても家族と一緒に暮らせる生活ができるため、今後益々成長する分野です。また、誰でもがスマホを持っており、日常の通信手段として使用しています。子供は、スマホゲームに夢中になって遊んでいます。

以上がフィリピンの生活や家族の様子ですが、経済が成長しているとは言え、まだまだ貧困生活者は多いです。貧しい人々は、ココナツ木やマンゴー木やバナナ等の果物等の食べ物が野山にあり食べ物に困らないし、ニワトリ・ヤギ・豚等を飼育しています。気温25℃~36℃と温暖な気候のため、半ズボン・半袖シャツの服と木小屋で充分生活でき、政府が貧困家庭に支援をしていることもあり、朗らかで明るく暮らしています。

以前に、中大技術士会ホームページのニュースレターのVol.30(2016年4月20日)、Vol.31(2016年7月16日)の2回に分けて、移住先のフィリピン国並びに住んでいるミンダナオ島イリガン市の自宅兼事務所と海岸サイドのビガの別宅等を詳しく紹介していますので、興味のある方はそちらをお読みください。

最後に、創立20周年を迎えた中大技術士会は、会長をはじめとして幹事、会員の努力と大学の支援のもとに発展してきました。これからも、中央大学を支える学生たちの「技術士」資格取得を進めるなど、社会に貢献できる人材育成と大学の発展に努めて下さい。

何か聞きたいことなどがありましたら、「kimihiko19@aol.com」のメールアドレスにて問い合わせ下さい。



会食パーティーとリチュン（豚の丸焼き）



「ココナツの収穫風景」

4.6 いつでも活躍できるように

中大技術士会幹事 萩野 太郎（金属・総合技術監理部門）

我が国の生産年齢人口はすでに 27 年前にピークを迎え、その後女性の活躍環境の整備や定年の延長などにより働き手の補充が行われてきましたが、今後人口減少と少子高齢化がますます進展する中で、高齢者から若者まですべての人が元気に活躍でき、安心して働ける社会づくりが今まで以上に求められています。内閣府の調査によりますと、60 歳を過ぎても「働きたい」と考えている人は 80%以上を占め、また、総務省の労働力調査によれば、60 歳以上の雇用者数は過去 10 年間で 1.5 倍に増加しています。すなわち、わが国では、高齢者が働くことは特別なことではなく、年齢にかかわらず働く社会に向かいつつあると思われれます。



その中で技術士は、多くの貴重な経験と知識を持ち、就労者として活躍することが出来るので、その能力を継続するために自身の体力維持をはかるための自覚を持つことが求められています。すなわち、一人一人体力を維持するための生活習慣として、適正体重、規則的な朝食、運動(特に歩行)、睡眠、年一回の健康診断、ストレスのない日常生活等がもとめられ、その結果として、体力の柔軟性・筋力・筋持久力・バランス・俊敏性・器用さ等の継続を図ることが出来ると思われれます。

同時に近年の医学の進歩もあり、例えば視力についても白内障の手術で費用はかかりますが多焦点眼内レンズ手術を行えば、近眼や老眼、乱視などが改善されメガネ無しで新聞が読めるようになります、歯も入れ歯の代わりにインプラントの手術を行えば抜けた歯の完全な代替が得られますので老化によって失われた能力の回復が得られるようになっています。

一方雇用者側として、高齢者対応として、業務環境の整備が求められています。すなわち労働災害による休業 4 日以上死傷者数のうち、60 歳以上の労働者が占める割合が増加傾向にあり、休業 4 日以上の死傷者の 25%が 60 歳以上という状況になっています。労働災害発生率は男女ともに最小となる 25～29 歳と比べ、65～69 歳では男性では二倍、女性では五倍と高くなっています、内訳として、転倒災害、次いで墜落・転落災害の発生が若年層に比べて高い傾向にあります。高齢者の身体機能は、近年向上しているとはいえ、若年層に比べて聴力、視力、平衡感覚、筋力などの低下が見られ、高齢者の労働災害を防止するためには、その特性に応じた的確な対策が必要となります。高齢者が安心して安全に働ける職場環境づくりや、労働災害の予防的観点から身体機能維持のための健康づくりが、これまで以上に重要な社会的課題となっています。

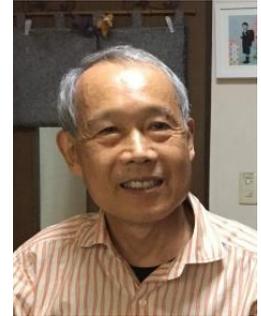
中大技術士会の皆様も人生 100 年と云われる現代社会の中で、いつまでも健康寿命を維持しつつ、まだまだ仕事や趣味、ボランティアなどでご活躍していただきたいものです。

以上

4.7 79 歳での入院・その後

中大技術士会参与 大澤 勇（機械部門部門）

私は 79 歳の時、心不全で、緊急入院し胸部に ICD(除細動器)の埋込手術を行い、同時に大腸のがんの手術も受けた。この顛末はエッセー『79 歳での入院』としてニュースレター Vol.53 に掲載させていただいた。ここではその後の話である。高齢者の仲間入りした方には少しは参考になるかもしれない。時間が許される方はご覧ください。



その後の ICD の作動状態は順調である。ICD は心不全状態になると自動的に電気ショックを心臓に与えて再稼働させる機能 (AED 機能) を伴ったペースメーカーである。私は医師に素朴な質問をした『これを装着すると、衰弱して死を望んでも AED 機能が働き、死ねないという困った状態にならないか?』。医師の答は『その場合はいくらショック信号を与えても体が受け付けない。大丈夫安心して下さい。』であった。

もう一つの疾患の大腸がんは手術支援ロボット (Fig-1) *1 を使って患部を除去したのだが、ガン細胞がリンパ節を介し肺に転移していて、これを除去する手術も受け、引き続き抗がん剤治療を受けた。さらに 1 年後の検査で、また新たなガンが肺に複数出来ている事が判った。抗がん剤の効果がなかったのだ。腎臓の機能が低下している私には使用可能な薬剤は限られ、現状使用できる有効な抗がん剤はないそうだ。また肺ガンは転移などしやすいとの事だ。今後の対処について医師から下記の 3 案が示された、どれを選択するかは患者本人に任される。



	処置	医師の説明
1	再手術をする。	外科的にガンを取り除くのだが、体への負担が大きく、免疫力の低下も懸念される。
2	放射線治療をする。	最近の放射線治療は体へのダメージは低いが、周辺細胞への悪影響は避けられない。使う放射線の種類や照射方法により影響は異なる。
3	何もしない。	免疫力が強い場合は結果的に良い場合もある。結果の事前予測は難しい、ガン細胞の増殖速度による。もちろん現状より良くなる事はない。

1 の処置では麻酔医の話で『手術は全身麻酔で知らないうちに済んでしまう。しかし体は大変なストレスを体は受けている。刀物で体をえぐられるのだから。』の話が印象に残った。

2 の放射線治療の話では、私の肺には微小なガンも複数あり、これらを放射線照射でカバーするのは難しい。さらに検査後にどのような治療ができるか医師相談する予定になっている。

3 の何もしないは、免疫力とガンのせめぎあい治療なしに眺める事だ。言うなれば治療放棄だ。現状より良くなる事はないが、免疫力が強ければガンの進行は遅くなる。無理のない運動を行い、よく食べ、よく眠り体力の温存に努める。要はなる様になると開き直るのだ。

私は 2024 年の誕生日には 82 歳になる。『80 歳直前で 3 回の手術も経験した。雇用期間中も、独立後も興味深い仕事をさせてもらった。同級生の半分は故人なのだ。医師の話でも、自分で調べた結果でも、私の年齢では、ガン治療のもたらす利益と不利益の差は小さい。場合によっては不利益が利益を上まわるのだ。であれば体に負担がかかる治療をしないほうが良いのではないか。80 歳代では 2 人に 1 人は程度の差はあれ、ガンに罹患しているようだ。長生きより自活できる事が目的だ』そう思うと『何

もしない』を選択するのが妥当と思うのだが、チョット待って放射線治療の可能性を聞いてから判断しようかと思っている。

『私達“土業”（侍業とも言う）は専門知識を生かして、組織から独立して働く。委託側、受託側どちらかに不満があれば、契約を解除するのは容易にできる。組織内に居残って“老害”を周囲に与える懸念もない。引退時期は自分で決める。理想的な境遇ではないか。』そう思っていたのだが、72歳で糸球体腎炎になり、退職後14年間続けた土業を廃業した。自分の健康寿命（健康上の理由で仕事や日常生活が制約されない生存期間）の予測を怠ったのだ。病は見かけ上突然来るので、健康寿命の予測は思いのほか難しい。しかし土業の方は日頃の体調に注意して、健康寿命の予測値を常に更新されておく事を勧めたい。

私の生活で運動らしきものは散歩だけである。1日に6000歩程度近所の畑道(Fig-2)を歩いている。私の唯一の体を使う趣味であった、年齢別の競技水泳(マスターズ水泳)も無酸素運動なるが故に、医師にやんわりと禁止された。先日散歩中に家庭菜園をすすめられた。作物の選定、施肥、など頭と体を使って楽しいそうだが、猫の額ほどの我が家の庭さえまともに管理できない身には荷が重くお断りした。手間がかからない趣味として庭に来る野鳥観察も楽し



Fig-3

んでいる。注意深く観察すると20種類程の野鳥が飛来する。一度であるがカッコウの仲間、深山に



Fig-2

いるはずのツツドリが来た。通年常に観察されるのは雀とシジュウカラであり、冬の間はジョウビタキやメジロ(Fig-3)等多くの野鳥が来る。野生動物に餌をやるのは、人間のエゴで彼らの為にならないそうだ。正論であるが、身近で野鳥を見るのが面白いのでやめられない。

日常で「何もしていない」の次に長いのが読書の時間である。読書は2週間に4冊、年間100冊のペースである。本は集まると重くかさばるので、私立図書館で借りてくる。最近読んだ柚月裕子氏の“ミカエルの鼓動”は突然起きた手術支援ロボットの原因不明の不具合で、急遽マニュアル手術に切り替え、時間との勝負の心臓手術を危うく乗り切った医療現場の語なのだ。複雑な制御機能を搭載したハイテクロボットにはありそうな話で、実際にロボット手術を受けた身にはゾットする小説であった。また政治家の不祥事が多いので19~20世紀に活躍したドイツの政治学者マックス・ウエーバーの古典的名著『職業としての政治』を読んでみた。晩年に学生向けに行った講演をもとに執筆したものだが難解な書物であった。日大アメフト部の不祥事で林真理子理事長の統治力が疑問視されるが、彼女の小説家としての力量は素晴らしく読み応えのある著作も多い。“小説8050”は実際にありそうな場面の劇的な展開で読者を引きつける。

現在の私は体に不具合があっても、ストレスのかかる治療はしないと決めたのが良い為か、食欲もあり、睡眠もとれている。もしかしたら90歳近くまで生きるのではないかと危惧している。医療に頼って不自由に生きるのは御免こうむりたいものだ。このエッセーは何とも焦点の定まらない駄文になってしまった。貴重な時間を浪費させてしまい申し訳ない。お読み頂き有り難うございました。

*1：手術支援ロボットはアメリカのインティブ・サージカル社が開発した。医師がコンソールの画像を見ながら遠隔で鉗子を操作して手術を行う。医師がマニュアルでは施術困難であった微小空間での施術や、より微妙な動きが可能との事である。

4.8 生成 AI の活用について

中大技術士会会員 中野 愛之（建設部門）
（土木工学科 平成 6 年卒）

はじめに

中大技術士会発足 20 周年を迎え、この節目に心から皆様にお祝いの言葉を申し上げます。20 年もの間、会員同士の結びつきを深めるべく、様々に努力されてこられた関係者の皆様に、敬意を表します。本年 1 月 25 日に中央大学白門たくみ会（全学科同窓会）の新年顔合わせ会が開催され、私は土木・都市環境同窓会（以下、白土都会）の一員として参加させていただきました。その場にて、技術士会の小林副会長より記念誌を発刊するお話を伺い、寄稿文を執筆するよう依頼をいただきました。拙い文章ではありますが、お付き合いいただけましたら幸いです。



自己紹介

最初に私の自己紹介と近況報告をさせていただきます。

私は 1994 年 3 月に土木工学科を卒業し、同年 4 月に株式会社奥村組に入社し、都市トンネル、地下鉄駅部開削、鉄道連続立体交差化事業、河川改修、土地区画整理事業などの土木工事に 25 年程従事しました。現場における施工管理、技術開発、新技術の特許取得を経験する中で、技術士資格（建設部門）を取得しました。その後は本社・支社での内勤を経験し、現在は東日本支社土木工務部で職務にあっています。

中大技術士会との関係について、7 年前に学校訪問した際にお声をかけていただき、それ以来セミナーなどの案内をいただき、参加しています。

技術士会以外の母校への関わりとして、白土都会の企画部会長として活動しています。同会では母校での総会、評議員会等の各種会議や年 2 回開催されるゴルフコンペに加え、最近ではポタリング（自転車に乗りながらインフラを巡るサイクリング）や登山なども企画し、同窓生や関係者と共に楽しんでいます。ご興味のある方はお気軽にご連絡いただければ幸いです。

奥村組の紹介

ここで少し奥村組の紹介をさせていただきます。弊社は本社を大阪に構える総合建設会社であり、代表取締役は本校土木工学科 OB の奥村太加典氏（卒業年度：1986 年）です。2022 年度の売上は土木事業 972 億、建築事業 1,393 億、従業員 2,204 人の規模感です。誠実施工、堅実経営を標榜し、CM ではタレントの森川葵さん演じる「奥村くみちゃん」でおなじみかと思いますが、今年から MLB ポストンレッドソックスの吉田正尚選手を起用して露出が増えているかと思えます。なお近年はバイオマス発電やとらふぐの養殖販売などに代表される新規事業を包含した投資開発事業にも注力しています。また、中大関連においては、後樂園キャンパス 1 号館建設工事を 2022 年末に受注し、2024 年中の完成に向け現在建設中です。2025 年には、新 1 号館の外観を見ることができそうですので、そのタイミングで同窓生の皆様にも一度足を運んでいただければと思います。なお新 1 号館は旧 2 号館（以前敷地南東側にあった L 型の建物）の跡地に建設予定であり、旧 2 号館で研究生生活を送った私としては、少々寂しさがあるものの、将来、分野を越えた学際的領域の交流拠点としても利用できることを目指しているそうですので完成を期待しております。

理工学部上空写真



MLB 吉田選手 CM



白土都会（土木・都市環境同窓会）ポタリング 中断右端が筆者。（上段中央が研究開発機構山田教授）



生成系 AI の紹介

さて、ここから本題です。

私たちは今、人類の文明史における大きな転換点を迎つつあると言われています。それは、生成系 AI と呼ばれる技術が、一般の人々が利用できる環境になり、これまで人間しかできなかった知的活動の領域に人工知能が進出してきたためです。生成系 AI (Generative AI) とは、機械学習によって得られた知識や情報をもとに、新しいコンテンツを創り出す AI です。米オープン AI 社の ChatGPT やマイクロソフト社の検索エンジン Bing などが知られています。生成系 AI の登場は、印刷術の発明やインターネットの普及に匹敵するか、それ以上の変革をもたらすと予測されています。そのため、多くの人が活用法を模索中です。一方で、ある業種においては失業者が出る可能性や、学生の手抜きによる教育上の悪影響も危惧されています。このように評価は賛否両論ですが、いずれにしても「生成系 AI の能力が非常に高い」という理解は共通しています。一般的には「聞けば何でも答えてくれる魔法の仕掛け」と捉えられているためです。前置きはさておき、皆さんは生成系 AI の活用を始めていますか？私は最近、セミナーに参加したことをきっかけに、無料版の ChatGPT (GPT-3.5) を活用し始めました。今回は生成系 AI の日常的な利用などについて私なりの考察を交えて述べたいと思います。

生成系 AI の得意な事、不得意なこと

インターネットの登場は、情報の生産や流通に関わるあらゆる仕事に甚大な影響を与えました。スマートフォンも電話機メーカー、カメラメーカーなどへの影響が甚大です。これと同じような変化が生成系 AI の登場によりこれから引き起こされ、自分の仕事が奪われると多くの人が恐れています。この考えは残念ながら正しく、多くの人が今の仕事を奪われるだろうと予想されています。たとえば翻訳、文章の校正、既存データの処理、単純労働などです。また、いわゆるホワイトカラーの中でも特殊な技能を持つわけでもなく、単なる仲介や取次の役割しか果たしていない人々は淘汰されると言われています。しかし、現時点で生成系 AI は魔法の仕掛けではないようです。AI は新しい創作はできず、正誤様々なデータがあふれる環境では、正しいデータを提供することもできません。さらに、経験のある技術者が長年培った直感や経験、洞察力を代替することは不可能です。では、生成系 AI は何が得意で何が不得意なのでしょう。ここで AI への指示となるプロンプトについて記述します。生成系 AI を活用するにはプロンプトの書き方が重要です。というのも、生成系 AI に文章を書いてもらう際に、「丸投げ」ではその能力を十分に発揮することができません。

ここからプロンプトを用いて2つの事例を示します。

第一に生成系 AI が不得意な例として、新しい創作の事例を示します。

私は建設業に従事していますので、「安全標語」について ChatGPT に作成を丸投げしてみました。プロンプトは丸投げ相当の「安全標語を2つ作成してください」としました。生成結果は次の2つです。

1. 安全第一、事故ゼロを目指しましょう。
2. 事故を防ぐ最善の方法は、常に安全を意識することです。

いかがでしょうか。それはそうだけなんだよ！と思わず突っ込みたい内容であり、これではとてもコンテストで上位に入賞できません。次にプロンプトを変更しました。「我が国の2022年度の建設業における死亡災害において、最も多い型から、その災害を防止するための具体的な対策を盛り込んだ安全標語を2つ、それぞれ30文字程度で、建設業に従事していない人にもわかるような文言を用いて作成してください。」

生成された標語は次の通りです。

1. 足元の安全を確保し、転倒事故を防ぐために、歩くときは安全靴を履き、不安定な場所では注意深く移動しましょう。

2. 重い物の取り扱い時には、正しい持ち方と適切な機械利用で、挽回できる事故を未然に防ぎましょう。

今度はどうでしょうか。プロンプトを細かく指示することにより、その内容は改善されました。ChatGPT をうまく使うにはこのようにプロンプトを出す能力が大変重要だと言われています。一方でこの標語は何か機械的で、平凡であり、相変わらずコンテスト入賞は難しい出来です。かつ、致命的なのは「最も多い型から」という指示を無視しているところです。これが現時点での生成系 AI の能力なのでしょう。

社内では、生成系 AI の登場で安全標語コンテストやサラリーマン川柳も成り立たなくなると言う声も聞こえますが、まだその実力は無いようです。(ただし有料版の GPT-4 なら別の結果となるかもしれません)

第二に生成系 AI が得意な例として、文章の校正事例を示します。

「私は、今日の、袈裟、から起きて、寝る前にご飯は食べず、午後に学校に行かずにオナかが減りつつ職自をしました。」というかなり破綻した文章を例にします。最初のプロンプトは「次の文章を校正してください」とします。生成の結果は次のとおりです。

「私は今日、袈裟から起きて、寝る前にご飯を食べず、午後に学校に行かずにオナかが減りつつ、仕事をしました。」でした。

次にプロンプトを「次の文章にある誤字脱字、不完全な表現などを直し、ほぼ同じ字数の文章を書いてください。なお、文章をまるごと削除しないことと、論理的に破綻した文章にしないこと。」としました。結果は、次のとおりです。

「私は今日、朝から起きて、寝る前には食事を摂らず、午後には学校に行かずにオナかが減りながら仕事をしました。」どうでしょう。あれだけ破綻していた文章も、プロンプト次第ではなんとなく校正のゴールが見える文章になりました。今回のような極端な例文ではなく、最初の文章がある程度の出来であれば、生成されるものはかなり良く、文章作成の効率化は格段に進むはずですよ。

生成系 AI と技術士について

これまでも示したように、私が GTP-3.5 を活用した実感としては、やはり新しい発想は期待できず、インターネット上にある情報を収集して文章化する程度の能力はあるものの、その情報が正しいのかは不明であり、内容も陳腐でそのまま活用することはできないというものです。これは ChatGPT や Bing も「結果が間違っているかもしれないから、依存してはならない」という趣旨の注記を出していることにも関連します。一方で、文章の校正には役立つと感じています。

このように、生成系 AI が書けるような文章を書いている人々にとっては、AI は明らかな脅威になるのは間違いありませんが、新しい発想、新しい見方、新しい考え方を提供できる人にとっては、AI は競合者にならず、逆にノンコアな仕事を引き受けてくれる強力なパートナーになるでしょう。結局、生成系 AI が敵になるか味方になるかは、その人次第となります。私達は、これまでどおり技術士としての知的作業を継続し、周辺作業の効率化に生成系 AI を活用することが必要になるでしょう。その結果、従来に増してアウトプットが向上していくのではないのでしょうか。

従ってこれからも技術士として研鑽していくことが、ますます必要になると考えます。

中大技術士会への期待

最後になりますが、中大技術士会への期待を、GTP-3.5 で作成しました。

(プロンプト)

「技術士会は創立 20 年を迎えました。若手技術士の参加をいかに促すか、会員が積極的に参加するた

めの具体的な活動内容の立案、さらにボランティアによる運営方法等について課題があります。所属する技術士として、同会への今後の期待を 300 文字程度で作成してください。」

(生成された文章)

「技術士会が 20 周年を迎えたことは喜ばしいです。今後、若手技術士の参加を促すためには、業界動向や最新技術の情報提供、交流イベントの拡充が必要です。会員の積極的な参加を促進するには、専門分野ごとのワーキンググループやプロジェクトを通じた実践的な活動の提供が考えられます。また、透明性と効果的なコミュニケーションを重視した運営が求められます。ボランティアによる運営方法を導入し、多様な経験を共有できるプラットフォームを構築することも重要です。これらの取り組みにより、技術士たちが連携し、知識やスキルの向上、そして業界全体の発展に寄与できることを期待しています。」

それらしい文章ではありますが、やはり中身がありませんでした。GTP-4 へのバージョンアップとプロンプト能力の向上が必要なのかもしれませんね。



礪川公園から見た後楽園キャンパス 中大技術士会幹事撮影

4.9 内藤会長との思い出

中大技術士会副会長 小林 進（情報工学・総合技術監理部門）

2021年6月23日の夕方、メールで内藤会長が亡くなられたことを知りました。幹事会ではお元気な様子で、3月に検査入院された話をしていましたが、余りにも突然のことでメールを何度か読み返すほどでした。

内藤さんは、2008年から中大技術士会の幹事として活動に参加され、2012年に副会長、2015年より会長を務められました。この間、亡くなる直前までCO2環境対策技術研究会の企画、運営を行っていました。この研究会には非常に熱心でした。その様子は、中大技術士会のホームページを見て頂くと判りますが2009年4月に行われた第3回見学会から2020年の第35回見学会まで全て内藤さんが写真入りで作成されています。また、見学会があると必ず幹事会で報告を行い、ホームページへの登録依頼とともにその原稿のデータが私宛に送られて来ました。そのため、コロナ禍で見学会が行えなくなる直前まで見ることができます。是非、一度、見てください。その他、また、CO2環境対策技術研究会が立ち上がった当初、幹事会で私が、「CO2ではなくCO₂ではないですか？」と確認したところ、「会の名称としてCO2と記載することにした」という回答があったことを覚えています。これらのことから、この研究会に対する内藤さんの思い、情熱のようなものを感じずにはられません。



挨拶される内藤会長

このように実直な内藤さんとの、忘れられない出来事があります。

2017年5月に「都市人間環境学専攻」の大学院設立の記念式典への参加について、中大技術士会内での連絡・事務手続きのミスにより内藤さんと激しく言い合ったことがありました。確か、5月中頃、5号館の応用化学科の会議室で「会の代表として会長が出席するべきだ」などと、内藤さんとかなり言い合ったことがあります。そのとき、最後には、内藤さんは私の意見を真摯に受け止め、ご家庭での予定を変更され、出席すると言われました。その後、大学側からスピーチの依頼があり、記念撮影を行うなどすばらしい時間を過ごすことができ、内藤さんとの貴重な思い出です。

内藤さんのご冥福をお祈りします。



都市人間環境学専攻課設立記念会での記念写真

4.10 音楽との再会

中大技術士会元幹事 笹尾圭哉子（上下水道部門）

土木工学科を卒業したのが1978（昭和53）年、9年前に定年退職し、現在は引き続き嘱託として週5日、うち2日はテレワークで勤務しています。勤務先では、2020年に予定されていたオリンピックによる首都圏交通網の混雑への対策としてテレワークを導入、その後のパンデミックによって定着し、オンライン会議も日常的となりました。本稿では、2020年以降に再会した大学時代の音楽仲間と音楽との関わりについて紹介します。

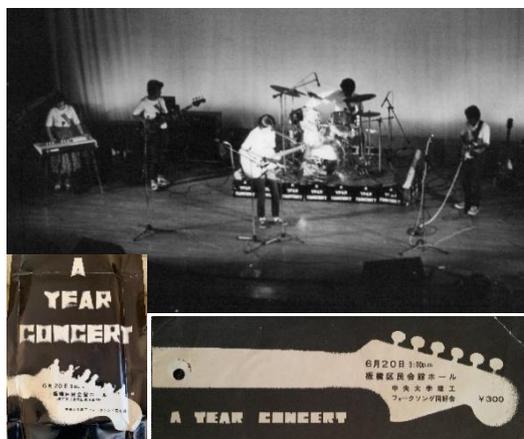


大学時代、「理工フォークソング同好会」に所属し、高校の途中までピアノを習っていたことでキーボードを担当していました。社会人になってからは仕事が忙しく、趣味では手描友禅染に夢中になっていたこともあり、音楽からはずっと遠ざかっていました。

2020年1月に母を亡くして気落ちしていたところ、6月に大学時代の仲間から、日本技術士会の上下水道部会長を通じてメールがありました。そして、電気工学科卒の2人（ギター&ボーカル担当）とオンラインで42年ぶり（！）に顔を合わせることにになり、さらに一緒に演奏をすることになりました。アップライトピアノを久しぶりに弾いてみると、練習後には指が硬直したように思うように曲がらず、痛みもあってどうにかなってしまうかと思ったほどでした。

そこから2人に色々教えてもらい、リモート演奏に必要な機材・ソフトを揃えて一緒に練習し、ピアノを調律して録音し、同じ年の11月はじめにYouTubeにアップしてもらいました。さらに年末には夜の練習で思う存分弾けるようにと電子ピアノを入手しました。半年足らずの間に生活環境が激変しました。のんびり屋の私1人ではとてもできないことでした。

年明けの2021年に土木工学科卒のメンバー（ベース担当）、そして2023年に工業化学科卒のメンバー（ギター&ボーカル担当）が加わり、KNISS（ナイス）というグループになりました。男性4人は大学時代からバンドを組んでおり、当時はそこに私が呼ばれて参加していました。右の写真は1977（昭和52）年6月に板橋区民会館で行った「A YEAR CONCERT」のときのものです。



卒業後それぞれ別の道を進み、北は札幌から南は下田まで、住んでいるところもバラバラで、それぞれの生活環境がありますが、毎週火曜日の夜にオンラインで定例会と称して課題曲の練習と、練習後のフリータイム（おしゃべりと自前演奏のカラオケ）を楽しんでいます。

「この曲どう？」という誰かの提案で課題曲が決まり練習を始めます。音の編集担当がベース音源を作り、そのテンポにあわせて各人が録音、それを音編集担当が編集します。バックの動画は、私が歌詞や曲想にあった絵コンテを作り、それを基に映像担当が動画を作ります。編集した音や動画について、忌憚のない意見を出し合い、最後はオンライン会議でもっと良くなるのではと、全員でチェックします。毎回言いたい放題ですが、改善されるところが凄いとっています（手前味噌ですが）。

これからもますます音楽を楽しんでいきたいと思えます。是非一度、YouTubeを視聴してみてください。特に「My Way」では水道橋・御茶ノ水界隈の動画がでてきますので、中大出身者には懐かしんでもらえると思えます。Webサイトも他愛のないことばかり書いていますが、よろしければ覗いてみて下さい。



<https://www.youtube.com/@kikutakechannel6319>



<https://kniss.my.canva.site/kniss-kikutake>

第5章 資料

5.1 中大技術士会 20年の歩み

中大技術士会 副会長 小林 進、幹事長 國島 旭

中大技術士会が白門技術士会として発足してから20年の歩みを紹介します。

(1) 創設期から10年の歩み

期	年月	出来事
創設期	2001年8月	・白門35会幹事会で三宅邦彦常任理事より金川 護氏（現中大技術士会会長）に「理工学部 に力を貸して欲しい」話があり、翌年の旅行会において中大出身の技術士の名簿作成を依 頼される。
	2002年10月	・中大事務局の事務員1名の協力を得て160名分の名簿を作成する。
	2002年12月	・三宅邦彦常任理事より「白門技術士会」結成を要請される。
	2003年12月	・金川 護氏が会長、鈴木 薫氏が幹事長で設立準備委員会を発足し、設立総会開催に向け て準備に入る。
	2004年4月	・白門技術士会発起人委員会発足
白門技術士会	2004年6月	・設立総会を後楽園キャンパスで開催し、白門技術士会発足。
	2005年7月	・第1回総会を日本技術士会会議室で開催
	2005年8月	・ニュースレターVol.1発行。会報と位置づけ、年に3~4回定期的に発行
	2006年6月	・第2回総会を鹿島建設（株）工事事務所会議室で開催 記念講演：講師 岩崎雍之氏「大学における知的財産活動の現状と課題」
	2007年1月	・白門技術士会ホームページを開設
	2007年2月	・会員への連絡用のメーリングリストを立ち上げる
	2007年5月	・理工学部1年を対象とした「科学技術と倫理」の講義を担当する。以降、白門技術士会と して毎年2~3名の講師を派遣する
	2007年5月	・白門会として認可され白門会旗を授与し、白門会の一員となる。
	2007年6月	・第3回総会を日本技術士会会議室で開催 記念講演：講師 田口 東氏「研究成果の公表とアイディアの帰属について」
	2008年5月	・応用化学科大石教授の研究を実用化することを目的に、CO2環境対策研究会発足
	2008年6月	・第4回総会を後楽園キャンパスで開催 記念講演1：講師 村岡晋一氏「科学技術と倫理」 記念講演2：講師 村上和雄氏「環境と科学の共生」
	2008年11月	・理工白門祭に出展を開始する。以降、毎年出展する。
	2008年11月	・技術士ガイダンスを企画し、日本技術士会から講師を招いたが、学生が会場に一人も来な かったため中止
	2009年6月	・第5回総会を後楽園キャンパスで開催 記念講演：講師 杉本泰治氏「技術者倫理-技術者コミュニティの発展を目指して」
	2009年10月	・ホームカミングデーに初めて出展。燃料電池、スターリングエンジンのデモを行う。 白門技術士会のブースに千葉法務大臣（当時）が来訪
	2009年11月	・理工白門祭に出展。昨年の反省を活かし、技術士の紹介の他に燃料電池、スターリングエ ンジンのデモを行う
	2010年1月	・各学科に対する技術士ガイダンスの実施方法の検討を開始する
2010年2月	・精密機械工学科中村研究室との交流が始まる	
2010年6月	・第6回総会を後楽園キャンパスで開催 記念講演：講師 石井洋一氏「ノーベル賞と有機金属」	
2010年6月	・都市環境工学科國生教授の提案により「太平洋ソーラセル発電」プロジェクト発足	
2010年10月	・支部昇格への内示あり。	
2010年11月	・理工白門祭に出展 燃料電池、スターリングエンジンに加え、1気筒のエンジンのデモを 加えて行う。	
中大技術士会	2011年1月	・物理学科、応用化学科、都市環境学科、精密機械工学科に対して技術士ガイダンス実施
	2011年4月	・理工学部都市環境工学科4年生を対象とした「技術者倫理」の講義を中大技術士会として 担当し、毎年、講師を14名の派遣を開始する。
	2011年5月	・学会会支部として承認され学会総会で支部旗授与。これに伴い名称を中大技術士と改め る。また、創立125周年プロジェクトの活動に対して感謝状授与する。
	2011年10月	・東日本大地震によりホームカミングデー中止。 ・第7回総会を後楽園キャンパスで開催。名称を中大技術士会と改めた最初の総会となる。

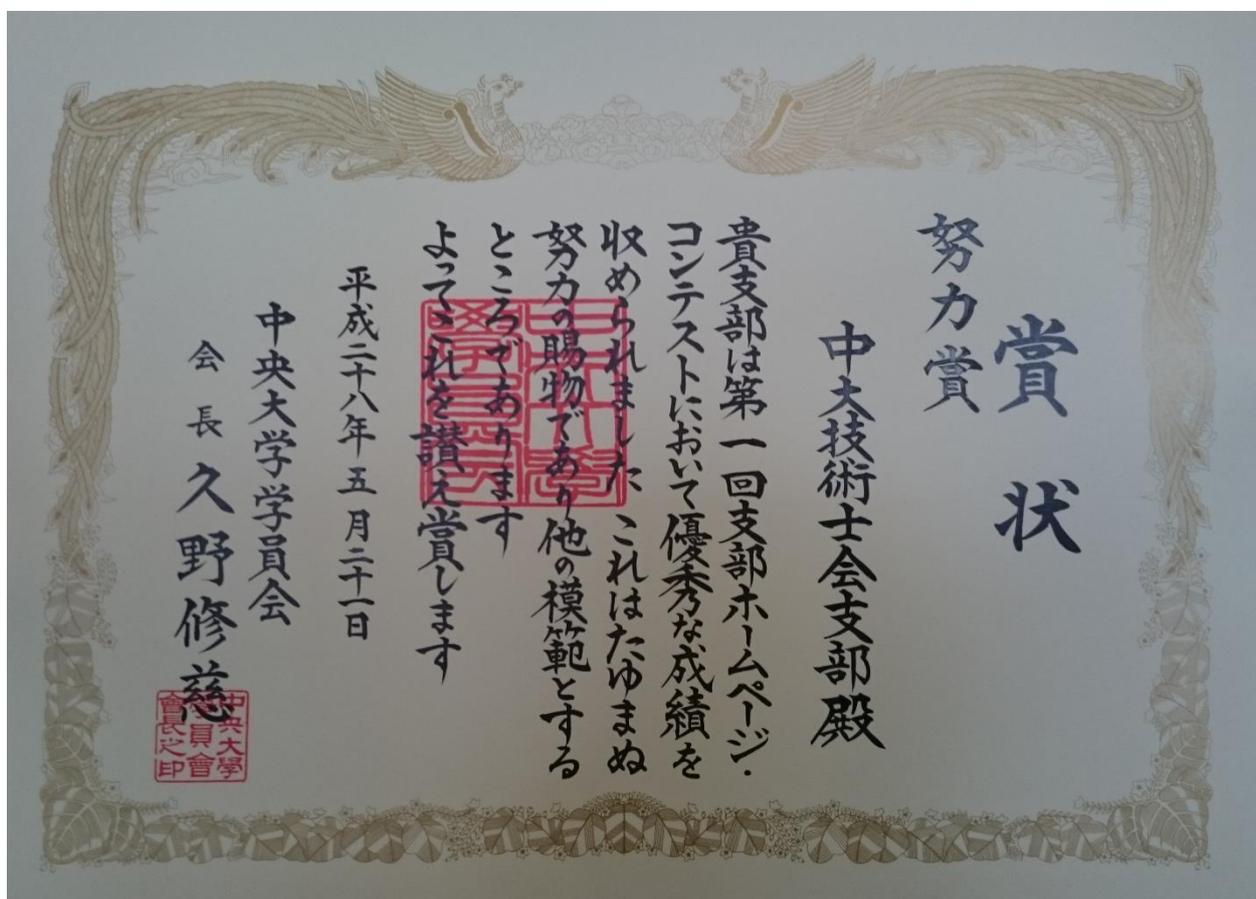
期	年月	出来事
中大技術士会	2011年10月	<ul style="list-style-type: none"> 会則を全面的に変更し、総務部会、広報部会、企画部会、大学支援部会を設けて部会中心の活動を開始する。 記念講演：講師 大谷隼人氏「中大法曹会と中大技術士会の連携」
	2011年11月	<ul style="list-style-type: none"> 中大法曹会と中大技術士会で幹事を持ち回りで、年1回の交換会を開始する。 ミミスロボット実用化プロジェクト発足。
	2011年12月	<ul style="list-style-type: none"> ホームページに使用しているサーバを変更し、中大技術士会のドメイン名を登録
	2012年5月	<ul style="list-style-type: none"> 第8回総会を後楽園キャンパスで開催。 記念講演：講師 橋本秀紀氏「空間とロボットの融合を目指して-空間知能化-」
	2012年10月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回中大技術士会・中大法曹会交換会を後楽園キャンパスで実施。 金川会長により事故発生の原因調査事例の紹介があった。
	2012年11月	<ul style="list-style-type: none"> ホームカミングデー、理工白門祭に出展。
	2012年12月	<ul style="list-style-type: none"> 中大技術士会の「職」を作成。
	2013年6月	<ul style="list-style-type: none"> 第9回総会を後楽園キャンパスで開催。今回より新規合格者歓迎会を兼ねて実施する。また、二次試験受験ガイダンスも併せて行う。 記念講演：講師 諏訪裕一氏「小さな生き物の微かな息遣いを聴く」
	2013年7月	<ul style="list-style-type: none"> 電気電子情報通信工学科の橋本教授からの提案により、2~3ヶ月毎にテクノロジー懇談会を開催し、大学との意見交換を開始する。
	2013年10月	<ul style="list-style-type: none"> 台風の影響によりホームカミングデー中止。 中大技術士会創立10周年記念誌編集プロジェクト発足。
	2013年11月 2013年12月	<ul style="list-style-type: none"> 理工白門祭に出展。今回、燃料電池を使用したモデルカーを出展する。 第3回中大技術士会・中大法曹会交換会を駿河台記念館で開催。 伊藤芳生弁護士より「交通事故紛争における事故原因の技術的な解明」の話題提供があった。
2014年5月	<ul style="list-style-type: none"> 第10回総会を創立10周年記念式典と記念講演を後楽園キャンパスで開催 招待者：理工学部長、学員会副会長、中大法曹会、公認会計士会、大学技術士連絡協議会の関係者 記念講演 講師：加藤俊一副学長 演題：人間の感性を測る-人の多様性と生活を楽にする技- 創立10周年記念号（ニュースレターVol.22）を発行。 	

(2) 10年~20年の歩み

期	年月	出来事
中大技術士会	2014年6月	<ul style="list-style-type: none"> 第5回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（橋本秀紀教授）。 話題提供 篠崎博文 幹事：「理工学技術と介護、リハビリについて」
	2014年9月	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験を後楽園キャンパスで開催
	2014年10月	<ul style="list-style-type: none"> 第6回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（橋本秀紀教授、自由討議） 第23回ホームカミングデー出展
	2014年11月	<ul style="list-style-type: none"> 理工白門祭に出展し、燃料電池カー、スターリングエンジン、ピストンエンジンのデモを行う。 第4回中大技術士会・中大法曹会交歓会を後楽園キャンパスで開催。 林 知幸 幹事長：「廃水処理方法の選定が肝心-クライアントの切なる思い-」の講演。 平成26年度 第2回中大技術士会講演会を後楽園キャンパスで開催 石川幹子教授：「社会資本整備の新しい潮流-自然・人・コミュニティと環境デザイン」
	2015年3月	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度 第3回中大技術士会講演会を後楽園キャンパスで開催 牧野光則 教授：「中大・理工・情報におけるCG・VR研究・教育のご紹介」
	2015年4月	<ul style="list-style-type: none"> 第7回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（橋本秀紀教授、自由討議）
	2015年5月	<ul style="list-style-type: none"> 第11回定時総会と記念講演会を後楽園キャンパスで開催 石井 靖 理工学部長：「合金による貴金属の代替」- 固体電子論と元素戦略 -
	2015年8月	<ul style="list-style-type: none"> 第8回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（橋本秀紀教授、自由討議）
	2015年9月	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験を後楽園キャンパスで開催
	2015年10月	<ul style="list-style-type: none"> 第24回ホームカミングデー出展
	2015年11月	<ul style="list-style-type: none"> 理工白門祭に出展し、燃料電池カー、スターリングエンジン、ピストンエンジンのデモを行う。 平成27年度 第2回中大技術士会講演会を後楽園キャンパスで開催 山田 正 教授：「ゲリラ豪雨や洪水等の水災害から生活や安全を守る -河川決壊事故のメカニズムや降雨流出現象の解析について-

期	年月	出来事
中大技術士会	2015年12月 2016年2月	<ul style="list-style-type: none"> 第9回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（橋本秀紀教授、自由討議） 第5回中大技術士会・中大法曹会交歓会をユニゾ御茶ノ水ビル2階で開催。
	2016年3月 2016年5月	<ul style="list-style-type: none"> 嶋田貴文 弁護士：「マンションの工事の瑕疵を巡る問題―耐震ゴム偽装を例として―」 第10回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（橋本秀紀教授、自由討議） 第12回定時総会と記念講演会を後楽園キャンパスで開催。
	2016年9月 2016年10月 2016年11月	<ul style="list-style-type: none"> 記念講演：小松晃之教授：「人工血液が日本の未来を救う」 平成28年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験を後楽園キャンパスで開催。 第25回ホームカミングデー出展 理工白門祭に出展。今回より初期のパソコン、タイガー計算器、電卓を展示し、計算機の進歩がわかる展示を行う。
	2016年12月	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度 第2回中大技術士会講演会を後楽園キャンパスで開催。 諸麥俊司 准教授：「医工学連携による医療福祉機器の開発」
	2017年6月	<ul style="list-style-type: none"> 第6回中大技術士会・中大法曹会交歓会を後楽園キャンパスで開催。 國島 旭 幹事：「私が経験した問題解決方法（PL案件／公共事業／交通事故）」 第13回定時総会と記念講演会を後楽園キャンパスで開催。 田口 東 教授：「東京オリンピック観戦客輸送の余裕を首都圏電車ネットワークは持っているか」
	2017年7月 2017年10月	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験を後楽園キャンパスで開催 台風接近の影響により第26回ホームカミングデーの屋外イベントが全て中止になり、出展を見送る。
	2017年11月	<ul style="list-style-type: none"> 理工白門祭に出展。 平成29年度 第2回中大技術士会講演会を後楽園キャンパスで開催。 石川幹子 教授：「新しい国土・地球環境を支えるグリーンインフラの展開に向けて」
	2018年5月	<ul style="list-style-type: none"> 第7回中大技術士会・中大法曹会交歓会を後楽園キャンパスで開催。 矢部耕三 弁護士：「弁護士と技術士の業務・・・その接点とさらなる可能性」
	2018年6月	<ul style="list-style-type: none"> 第14回定時総会と記念講演会を後楽園キャンパスで開催。 榎山和男 理工学部長：「VR技術を用いた騒音シミュレーションとその可聴化」
	2018年10月	<ul style="list-style-type: none"> 第11回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（諸麥俊司 准教授） 第27回ホームカミングデーに出展 諸麥俊司准教授、内藤会長、國島幹事で戸田ボート場/エルゴメータ練習機を見学。
	2018年11月	<ul style="list-style-type: none"> 理工白門祭に出展。 平成30年度 第2回中大技術士会講演会を後楽園キャンパスで開催。 佐藤尚次 教授：「構造物の信頼性と品質の指標について～「信頼性設計法に基づく土木構造物の性能照査ガイドライン」を例として～」
	2018年12月	<ul style="list-style-type: none"> 第12回テクノロジー懇談会を後楽園キャンパスで開催（諸麥俊司 准教授） 篠崎博文 幹事：「ボート競技の身体動作に関する整体面からの考察」
	2019年6月	<ul style="list-style-type: none"> 第15回定時総会と記念講演会を後楽園キャンパスで開催 山村 寛 准教授：「人口減少社会に向けた“スマート”な上下水道インフラ」
	2019年9月	<ul style="list-style-type: none"> 令和1年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験を後楽園キャンパスで開催 第28回ホームカミングデー後楽園キャンパスで開催され、出展した。 出展会場で大村理事長より感謝状を贈呈された。
	2019年11月	<ul style="list-style-type: none"> 理工白門祭の出展
	2020年2月頃	<p>*****以降、新型コロナ禍に入り感染拡大防止のため各種行事開催を見送る*****</p>
	2020年9月 2020年10月	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験をオンラインで開催。 第16回定時総会と記念講演会をZoomによるオンライン会議で開催。 山田 正 教授：「近年の豪雨災害と今後の技術対策への一考」
	2021年6月 2021年10月	<ul style="list-style-type: none"> 内藤堅一会長、ご逝去。 第17回定時総会と記念講演会をZoomによるオンライン会議で開催。 小柳拓央 幹事：「技術士 魂の伝承」～人生を切り拓く技術士資格の活用法 令和3年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験をハイブリッド会議（対面：後楽園キャンパス + オンライン）で開催。
	2022年5月 2022年11月 2023年3月	<ul style="list-style-type: none"> 石川幹子 機構教授との「グリーンインフラ勉強会」の発足。 令和4年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験を後楽園キャンパスで開催。 第1回技術士第一次試験の合格者歓迎会（在学生への理工学部長表彰式）開催。 理工学部長から賞状、中大技術士会から記念品を贈呈する。 第18回定時総会と記念講演会をハイブリッド会議（対面+オンライン）で開催。 坂林和重 会長：「技術士第1次試験の勉強方法、および、第2次試験の試験制度と採点基準」

期	年月	出来事
中大技術士会	2023年5月	*****新型コロナが感染法上5類相当に移行*****
	2023年5月	<ul style="list-style-type: none"> 第8回中大技術士会・中大法曹会交歓会を駿河台キャンパスで開催。 國島 旭 幹事長:「法曹会から中大技術士会に依頼のあった道路工事現場で起きた車両事故の控訴対応について(民事)」
	2023年7月	<ul style="list-style-type: none"> 中大技術士会創立20周年記念誌編集プロジェクト発足
	2023年10月	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の在校生向け技術士第一次試験の模擬試験を後樂園キャンパスで開催。 第32回ホームカミングデーに出展
	2023年11月	<ul style="list-style-type: none"> 理工ホームカミングデーに出展
	2023年12月	<ul style="list-style-type: none"> 第19回定時総会をZoomによるオンライン会議で開催
	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回技術士第一次試験の合格者歓迎会(在学生への理工学部長表彰式)理工学部長から賞状、中大技術士会から記念品を贈呈する。
2024年6月	<ul style="list-style-type: none"> 第20回総会を創立20周年記念式典と記念講演を後樂園キャンパスで開催 創立20周年記念号(ニューズレターVol.61)を発行 	



第1回支部ホームページコンテストで努力賞授与

5.2 歴代幹事

中大技術士会副会長 小林 進、幹事長 國島 旭

設立準備期から2024年3月末時点までの幹事を紹介します。

(1) 創設時～10年

氏名	創設期		1期		2期		3期		4期		5期
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
金川 護	← 責任者 →						会 長				→
渡邊 潤三	← 委 員 →						副会長			×	顧問 →
藤森 公彦	← 委 員 →						副会長				→
畑中 勸	← 委 員 →		副会長 ×				幹 事			→	
鈴木 薫	← 副責任者 →		幹事長 ×				幹 事				→
天野 浩志	← 委 員 →										
大澤 勇	← 委 員 →						幹 事				→
志田 俊一	← 委 員 →		幹 事 →			←			幹 事		→
河合 直樹	← 委 員 →		幹 事 →								
松橋 富雄	← 委 員 →		幹 事 →								
堀尾 佐喜夫	← 委 員 →						幹 事			→	
上高原 健	← 委 員 →		幹 事 →								
萩野 太郎	← 委 員 →						幹 事				→
田原 達人	← 委 員 →						幹 事			×	参与 →
日野 信一	← 委 員 →		幹 事 →								
大塚 仁司	← 委 員 →		幹 事 →								
飯村 正憲	← 委 員 →		幹 事 →								
染谷 繁実	← 委 員 →						幹 事				→
中摩 俊男	← 委 員 →						幹 事			×	参与 →
木村 貞彦	← 委 員 →						副会長			×	顧問 →
神保 吉次	← 委 員 →		幹 事 →								
溝口 健	← 委 員 →		幹 事 →								
福島 有一	← 委 員 →		監 事 →								
笹尾圭哉子	← 委 員 →		監 事 ×				幹 事			→	
村田 賢司		←					幹 事		→		
相澤 謙次		←					幹 事				→
林 知幸		←	幹 事 ×				幹事長				→

氏名	創設期		1期		2期		3期		4期		5期
	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
杉山 篤		←	幹事	→							
小林 進				←			幹事			×	副会長
村田 雅尚					←	幹事	→				
高橋 宗純					←			幹事			→
足立 元良					←			幹事			→
内藤 堅一						←		幹事		×	副会長
君島 光夫							←		幹事		→
加藤 行勝							←		幹事		→
清水 英樹							←		幹事		→
松本 義弘							←		幹事		→
坂林 和重							←		幹事		→
篠崎 博文								←		幹事	→
河原 進								←		幹事	→
小柳 拓央								←		幹事	→
佐藤 儀一								←		幹事	→
小野塚 喜代一									←	幹事	→
中尾 愛人									←	幹事	→
岩瀬 暢男									←	幹事	→
武安 真児										←	幹事
國島 旭										←	幹事
伊藤 俊郎											幹事
佐伯 博之											幹事

(2) 10年~20年

氏名	5期		6期		7期		8期		9期		10期	
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	
坂林 和重	幹事	><			副会長			><		会長		
武安 真児	幹事	><				副会長						
小林 進						副会長						
国友 信秀								<	副会長	>		
黒澤 之									<	幹事	副会長	
國島 旭				幹事				><	幹事長代行	><	幹事長	
山下 三雄				<	幹事	>	幹事長代行	><		幹事		
鈴木 薫						幹事						
萩野 太郎						幹事						
染谷 繁実						幹事						
加藤 行勝						幹事						
清水 英樹						幹事						
松本 義弘						幹事						
篠崎 博文						幹事				参与		
小柳 拓央						幹事						
佐藤 儀一						幹事						
小野塚 喜代一	<					幹事						
岩瀬 暢男	<					幹事						
伊藤 俊郎	<					幹事					>	
大塚 仁司	<					幹事						
大畠 利宏								<		幹事		
田畑 琢己									<	幹事		
澤田 泰希									<	幹事		
金川 護	<会長	><					名誉顧問					
藤森 公彦	<					顧問						
渡邊 潤三	<					顧問						
相澤 謙次	<幹事	><				顧問						
仲摩 俊男	<					参与						
田原 達人	<					参与						
河原 進	<					参与						

氏名	5期		6期		7期		8期		9期		10期
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
志田 俊一	←					参与					→
西川 和也				← 幹事	→				参与		→
大澤 勇	←					参与		→		参与	→
足立 元良	←			幹事				→		参与	→
中尾 愛人	←					幹事				→	参与
君島 光夫	←	幹事	→				参与				→
渡辺 利道			←		幹事			→		参与	→
佐伯 博之	←			幹事				→		参与	→
今野 武	←			幹事				→		参与	→
木内 希沙彦				←		幹事		→		参与	→
内藤 堅一	副会長	→			会長			→			
木村 貞彦	顧問	→									
林 知幸	←				幹事長						→



第23回ホームカミングデー出展の様子

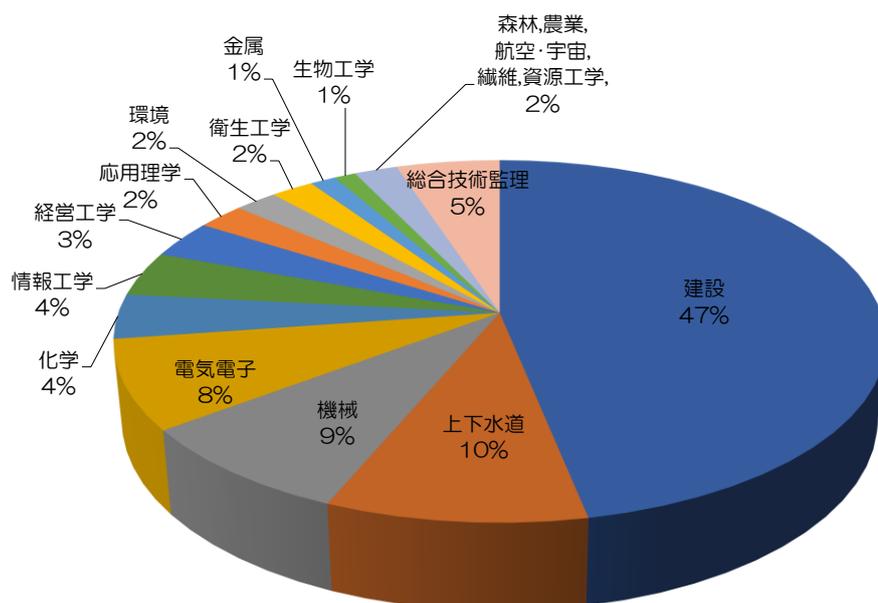
5.3 会員構成

中大技術士会 幹事 染谷 繁実（経営工学部門）

2024年3月末時点での会員数は技術士286名、修習技術者155名、準会員17名、合計458名です。

3月末時点までに本会に申請のあった技術士の技術部門の構成を下記に示します。

技術部門	述べ人数	比率 (%)
機械部門	40	8.4
航空・宇宙部門	1	0.2
電気電子部門	38	8.0
化学部門	19	4.0
繊維部門	1	0.2
金属部門	6	1.3
資源工学部門	1	0.2
建設部門	223	46.8
上下水道部門	45	9.5
衛生工学部門	10	2.1
農業部門	3	0.6
森林部門	4	0.8
経営工学部門	16	3.4
情報工学部門	19	4.0
応用理学部門	11	2.3
生物工学部門	5	1.1
環境部門	10	2.1
総合技術監理部門	24	5.0
合計	476	100.0



5.4 中大技術士会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、中大技術士会と称し、中央大学学会の支部とする。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を深め、また、母校学校法人中央大学（以下「中央大学」という。）の発展に貢献し、技術者の能力開発の一助となるような活動をするを目的とする。

(活動)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の活動を行ない、活動規約は別途定めるものとする。

- (1) 中央大学の健全な運営に協力し、意見を具申すること
- (2) 技術士の啓蒙と受験支援・指導
- (3) 各種研究会の立上げ、推進
- (4) 技術発表会、講演会及び座談会の開催
- (5) その他必要と認められた活動

(事務所)

第4条 本会の事務所は、中央大学学会本部事務局内に置く。

第2章 会 員

(正会員)

第5条 以下の資格を有する者は正会員となることができる。

1. 中央大学およびその理工学部の前身である中央工業専門学校を卒業または在学し、技術士法に規定された技術士および技術士補に登録された者、また、同法に定められた技術士および技術士補となる資格を有する者は、正会員の資格を有するものとする。
2. 前号に挙げる者のほか、中央大学に在籍する者または在籍していた者で、技術士（技術士補を含む）または技術士（技術士補を含む）となる資格を有する者は、正会員の資格を有するものとする。

(準会員)

第6条 中央大学に在籍する者または在籍していた者で、本会の目的に賛同する者は、準会員の資格を有するものとする。

(入会)

第7条 正会員および準会員（以下「会員」という。）の資格を有する者で、本会への入会の届を完了した者は、会員として登録される。

(会費)

第8条 会員は、総会で決定した年会費を納入する。

(資格の喪失)

第9条 会員は、次の事由によりその資格を喪失する。

- (1) 脱会の届出
- (2) 死亡
- (3) 除名

(脱会)

第10条 前条の事由により脱会した者は、会員の登録を抹消する。

(除名)

第11条 本会の名誉を傷つけ、秩序を乱し、本会の目的に反する行為を行ったと幹事会が判断した会員は会員の資格を失う。

(会員名簿)

第12条 会員の資格を取得した者があるときは、これを名簿に記載し、会員の資格を失った者があるときは、これを名簿から抹消する。

第3章 役 員・顧問、参与

(役員)

第13条 本会に次の役員・幹事を置く。

- (1) 会 長 1名

- (2) 副会長 5名以内
- (3) 幹事長 1名
- (4) 幹事 30名以内

(選任)

第14条 前条役員の選任は以下のように行う。

- 1. 幹事は、立候補者並びに被推薦者の中から総会で選任する。
- 2. 任期期間中に役員の欠損を生じた場合及び補充する場合は、幹事会において選出して、会長がこれを委嘱し、直近の総会に報告して承認を受けるものとする。
- 3. 会長、副会長、幹事長等の役員は幹事会において互選する。結果はホームページに掲載すると共に直近の総会に報告する。

(職務)

第15条 役員・幹事の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し会務を統括し、中央大学学会の支部長となる。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を代行し、中央大学学会の副支部長とし支部長の代行となる。
- (3) 幹事長は、幹事会を招集し、会の円滑な運営を行う。
- (4) 幹事は、幹事会において本会の運営について審議し、決定し、事務並びに会計業務を行う。
- (5) 役員・幹事は、第3条の活動を円滑に運営する責務が負い、各活動のいずれかに所属するものとする。

(任期)

第16条 役員の任期は次のとおりとする。

- 1. 役員の任期は1期2年とする。但し再任は妨げない。
- 2. 役員の交代または増員により新たに委嘱された役員の任期満了日は、他の役員と同様とする。

(顧問、参与)

第17条 本会に次の顧問、参与を置くことができる。顧問、参与は、次の条件を満たした者を幹事会にて推薦し、会長が委嘱する。また、本会の管理運営につき会長の諮問に應ずるほか、幹事会に出席し、意見を述べることができる。

- (1) 名誉顧問は、会長を2期以上務めた者で本会の発展に尽力した者
- (2) 顧問は、副会長、幹事長を2期以上務めた者で本会の発展に尽力した者
- (3) 参与は、幹事を2期以上務めた者で本会の発展に尽力した者

(報酬)

第18条 役員、幹事及び顧問、参与は、無報酬とする。

第4章 会議

(会議)

第19条 本会の会議は、総会および幹事会とする。

- 1. 総会は、会員を持って構成する。
- 2. 総会は、本会の最高意思決定機関であり、定時総会および臨時総会とする。
- 3. 定時総会は、年1回開催する。
- 4. 臨時総会は、会長もしくは幹事会が必要と認めたととき、および会員の4分の1以上の要求があるときに開催する。
- 5. 幹事会は、役員および幹事をもって構成する。会員は、必要があるときは幹事会に出席し、意見を述べることができる。
- 6. 幹事会は、必要に応じ、臨時開催する。
- 7. 幹事会の議長は、会長あるいは副会長が務める。

(招集)

第20条 会議の招集は以下のように行う。

- 1. 総会は、会長が招集する。
- 2. 幹事会は、幹事長が招集する。

(議事)

第21条 総会においては、この会則に定めるもののほか、次の事項を決議する。

- (1) 事業報告および決算の承認に関する事項
- (2) 事業計画および予算の決定に関する事項
- (3) その他、総会における決議が必要と認められた重要事項

(会議の議決)

第22条 総会および幹事会の議決は、出席者の過半数をもって決する。

第5章 運 営

(運営)

第23条 本会を運営するため、事務局および部会を置くことができる。

(経費)

第24条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。

(会計年度)

第25条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(帳簿)

第26条 本会は、次の帳簿を備え付ける。

- (1) 会員名簿
- (2) 金銭出納帳
- (3) 会費、寄付金等収入簿
- (4) その他必要な帳簿、書類等

(決算)

第27条 会長は、毎会計年度終了後、次の書類を作成し、幹事会の審議を経て、定時総会に上程しなければならない。

- (1) 事業計画書
- (2) 収支決算書並びに予算書

第6章 会則の変更と解散

(会則変更)

第28条 本会則の変更は、会員からの変更提案を受け、幹事会の審議を経て総会の決議により決定する。

(解散)

第29条 解散に関する定めは、以下のとおりとする。

1. 本会は、幹事会の審議を経て、総会の議決により解散することができる。
2. 解散時に余剰金および残余資産があるときは、これを中央大学に寄付する。

第7章 補 則

第30条 本会則に必要な細則は、幹事会において定める。

第8章 附 則

1. 本会則は、本会設立の日(平成16年6月19日)から施行する。
2. 第16条の定めにかかわらず、次期総会において役員が選出されるまでは、現役員がその職務を継続するものとする。
3. 本会の最初の会計年度は、第23条の規程にかかわらず、本会の設立の日始まり、平成18年3月31日に終わる。
4. 会費は、「第8条 会員は、総会で決定した年会費を納入する。」とあるが、当面无料とする。
5. 第1回改定：平成17年7月2日
6. 第2回改定：平成19年6月23日
7. 第3回改定：平成20年6月20日
8. 第4回改定：平成22年6月19日
9. 第5回改定：平成23年10月29日
10. 第6回改定：平成26年2月10日(表記方法の修正のみのため、幹事会の承認により改定)
11. 第7回改定：平成26年5月31日
12. 第8回改定：平成27年5月30日定時総会 (会員資格の見直し)
13. 第9回改定：平成28年5月28日定時総会 (第16条2項改定)

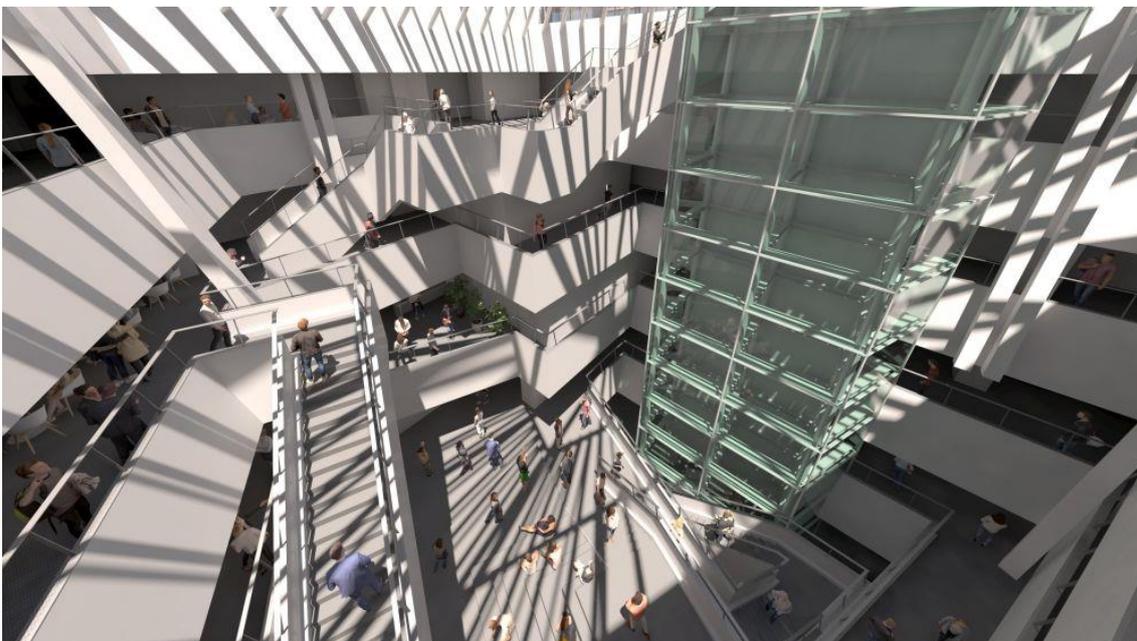
新 1 号館完成予想図

現在の 1 号館は後樂園キャンパスが開校した 1963 年に立てられ、今日まで教育・研究活動の中心的役割を果たしてきました。また、開校当時から残る唯一の校舎であり、多くの会員の方にも馴染みのあると思います。しかし、老朽化が進み、新しく生まれ変わることになりました。

現在の 1 号館は新 1 号館完成後に取り壊され、跡地は多目的コートになると聞いています。現在の 1 号館が残っているうちに、是非、後樂園キャンパスに足を運んでください。



新 1 号館の外観



新 1 号館内部の様子

写真提供：中央大学

中大技術士会会員募集中！

本会は平成16年6月に設立し、本10周年記念誌に記載しています通り、①母校中央大学の先生方の研究成果を社会に還元する産学連携時の産業界への橋渡し役になること。②母校の学生や卒業生が技術士資格を取得する為の支援を行うこと。③本会会員の自己研鑽のための研修会を開くことを目的に活動を行っています。中央大学出身の技術士、技術士補、修習技術者の皆さん、母校中央大学の発展と会員相互のネットワーク構築のために、是非、本会の活動に参加してください。お待ちしております。

入会資格

中央大学または理工学部の前身である中央工業専門学校を卒業し「技術士または技術士補の資格を取得した方」または、「技術士または技術士補となる資格を有する方」が入会できます。

入会金・年会費

当面、無料！

但し、講習会等での会合費は別途必要になります。

入会方法

中大技術士会のホームページにあります入会申込書または、本誌にあります「入会申込書」に必要事項を記入し下記幹事会宛てにメールで送付して頂ければ入会できます。

なお、幹事会からの各種連絡は電子メールで行う形になりますので、メールアドレスは必ず記入してください。また、申請して頂きましたメールアドレスは連絡用のメーリングリストに登録させていただきますので、ご了解ください。

問い合わせ・入会申込書送付先：toiawase@chuo-u-pej.org

入会申込書入手先：中大技術士会ホームページ→中大技術士会の紹介→入会のご案内

中大技術士会ホームページ：<http://www.chuo-u-pej.org>



後樂園キャンパス正門の様子



中央大学校歌

作詞 石川 道雄
作曲 坂本 良隆

一、草の緑に風薫る
丘に目映き白門を
暮れ集える若人が
真理の道にはげみつ
栄えある歴史を承け伝う
ああ中央 われらが中央
中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも
揺るがぬ意気ぞいと昂く
春の驕奢の花ならで
みりの秋やめざすらむ
学びの園こそ豊なれ
ああ中央 われらが中央
中央の名よ誉あれ

三、いざ起て友よ時は今
新しき世のあさほらけ
胸に血潮の高鳴りや
湧く歌声もはれやかに
自由の天地ぞ展げゆく
ああ中央 われらが中央
中央の名よ栄あれ

中央大学応援歌

中央大学学友会選定歌詞
作曲 古閑 裕而

一、憧れ高く空ひろく
理想の光あやなせる
ああ中央の若き日に
伝統誇る白門の
戦い挑む旗揚げ
力 力 中央 中央

二、情熱と力の若人が
精鋭こそぞりふるいたつ
ああ中央の若き日に
雄叫ぶ血汐紅は
闘魂たぎる火と燃える
力 力 中央 中央

三、我らが誇り覇者の歌
燦たり栄光我が生命
ああ中央の若き日に
今ぞ座らん覇者の座に
いざ勝どきを揚げんかな
力 力 中央 中央

惜別の歌

作詞 島崎 藤村
作曲 藤江 英輔

一、遠き別れにたえかねて
この高樓に登るかな
悲しむなかれ我が友よ
旅の衣をととのえよ

二、別れといえば昔より
この人の世の常なるを
流るる水を眺むれば
夢はずかしき涙かな

三、君がさやけき目のいろも
君くれないのくちびるも
君がみどりの黒髪も
またいつか見んこの別れ

四、君の行くべきやまかわは
落つる涙に見えわかず
袖のしぐれの冬の日に
君に贈らん花もがな

ニュースレターVol.61

中大技術士会創立 20 周年記念号 -中大技術士会 20 年の歩み-

令和 6 年 6 月 22 日 初版発行

編集 : 中大技術士会広報部会 ニュースレターVol.61 編集委員会

発行所 : 中央大学学員会 中大技術士会支部

E-mail toiawase@chuo-u-pej.org

ホームページ <http://www.chuo-u-pej.org/>

発行人 : 中大技術士会支部 支部長 坂林 和重

Copyright 2024 中央大学学員会 中大技術士会支部

当会への連絡・お問い合わせは、上記 E-mail アドレス宛にお願いします。

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製することを禁ず。